

総務建設経済常任委員会会議記録

1. 期 日 令和6年12月2日(月) 開会 11 時 36 分
閉会 17 時 11 分
2. 場 所 第1委員会室
3. 付議事件 ①豪雨災害を踏まえたラディアン周辺行政機能等集約事業を防災上からの検証と見直しを求める陳情 (令和6年陳情第12号)
②現在建設が予定されている場所での町役場の新庁舎についての陳情 (令和6年陳情第13号)
③「反対の多い果樹園での新庁舎計画を取りやめ法務局北側の町有地と民地買収地に新庁舎を造ろう」の陳情 (令和6年陳情第14号)
④二宮町税条例の一部を改正する条例 (町長提出議案第64号)
⑤二宮町道路構造等の基準を定める条例の一部を改正する条例 (町長提出議案第65号)
⑥二宮町下水道条例の一部を改正する条例 (町長提出議案第66号)
4. 出席者 浜井委員長、大沼副委員長、渡辺委員、松崎委員、根岸委員、善波委員、野地委員、前田議長
- 執行者側 ①政策部長、施設再編課長、施設再編推進班長、防災担当参事、危機管理班長
②政策部長、施設再編課長、施設再編推進班長、防災担当参事、危機管理班長
③政策部長、施設再編課長、施設再編推進班長
④町長、副町長、総務部長、戸籍税務課長、町民税班長、資産税班長
⑤町長、副町長、都市部長、都市整備課長、道路班長
⑥町長、副町長、都市部長、下水道課長、業務班長
- 傍聴議員 6名
一般傍聴者 9名

5. 経 過

①豪雨災害を踏まえたラディアン周辺行政機能等集約事業を防災上からの検証と見直しを求める陳情(令和6年陳情第12号)

委員長 ただいまより、総務建設経済常任委員会を開会いたします。初めに、議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 こんにちは。今回の総務建設経済常任委員会には陳情3件、条例3件が審査事項として挙がっております。各陳情、条例とも、慎重かつ丁寧なご審査いただきますよう、よろしくお願いいたします。

委員長

はい。それでは、初日の本会議で付託されました案件について、これより審査いたします。最初に、豪雨災害を踏まえたラディアン周辺行政機能等集約事業を防災上からの検証と見直しを求める陳情、令和6年陳情第12号を議題とします。お諮りします。本陳情につきまして、議会基本条例第15条の規定により、陳情者の意見を聞くこととしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

委員長

ご異議なしと認めます。本陳情につきましては、提出者のまちづくり工房「しお風」代表神保様と杉本様にご出席をいただいております。それでは神保様、10分程度にまとめて、趣旨説明をお願いいたします。はい。神保様。

＜趣旨説明＞

神保氏

はい。初めになんですけれども、ちょっと風邪をこじらせてしまって声が枯れていたり咳が出てしまったりするかもしれないので、その辺、よろしくお願ひしたいと思います。では始めます。日頃から「しお風」の活動にご理解ご協力いただき、11月に「しお風」創刊25年を迎えられたのも、皆様のおかげです。ありがとうございます。二宮町は南に相模湾、南北に葛川が流れ、低い山に囲まれ、平地には住宅地が広がる温暖な町、この自然環境の恵みが住み心地のよい町として機能してきました。こんな二宮町に8月30日朝7時に突然の緊急安全確保発令。台風10号の影響による葛川溢水後の発令に被害を抑える手だては間に合わず、住民に大きな損害や不安を与えました。葛川周辺の浸水被害だけではなく、土砂崩れや山からの湧水による浸水被害もあり、想定外の深刻な災害となりました。約5800万円の補正予算は、まだ応急対策費で、災害対策はこれからであり、ここに計上されてない住民や民間企業の被害額もあります。「しお風」はこのことにショックを受け、土砂崩れ浸水被害に遭われた方々や、町職員を含む20名近くの方々に取材を行うとともに、当時の気象情報や葛川の水位等の調査を行いました。その結果、考えてた以上の深刻さであり、次のことがわかりました。①土砂崩れでは、倒木の流れ落ちる角度がほんの少し違ったら、葛川の溢水では、1階に寝ている高齢者を2階への移動が間に合わなかったらなど、人の命に関わる大災害になったかもしれないこと。②川の水位等を確認していても寝ている間に急激に増水することや、大雨が続くと時間雨量で安心できないこと。今回の災害で警報がいかに危険性を予測していたものかなどわかりました。このことから警報時の防災意識の徹底の必要性。③大雨警報後に、自動車の高台への移動、高齢者らや、貴重品の2階等への移動、十分な土のうの用意などが必要だったと思

います。このことから、事前に予測がつきやすい豪雨対策の万全準備。④気象庁のホームページの掲載に基づいて作成した表4の町のすべき対応を参考にすると、町は大雨警報時に高齢者等の避難発令や、職員招集などができる体制を整え、一時的避難所の開設準備、住民への防災情報提供体制や、対応フローの決定、暗くなる前に危険な場所からの高齢者ら、避難発令と住民周知、災害対策体制の要員確保などができていませんでした。このことから、情報収集や災害応急対策が遅れ、防災責務の徹底の必要性。⑤被災された方々が体感したことと、災害発生時間等のデータが適合していました。もしそのときに、的確な防災知識や情報があれば、被害が減じられたと、被災された方々は残念になっていました。このことから防災知識や体感の重要性とその周知。⑥自分が住んでいる場所の地形や歴史、豪雨時の湧水や水の流れを知り防災知識と結びつくと、災害対策や減災に繋がります。このことから地域を知る、水の流れを知る必要性。⑦社会福祉協議会で行っている、床下を乾かす送風機の貸し出しや、災害ボランティア派遣が、被災者に周知されず、災害ボランティアを活用できなかった方々もいらっしゃいました。葛川の上流の開発についての不安を漏らす方々もいらっしゃいました。このようなことから社会福祉協議会、県や中井町など関係機関との連携の徹底の必要性。⑧町の使命は住民の生命財産を守ることです。土砂警戒情報時に一時的に避難所の開設や人員配置、土砂災害警戒地域への避難指示、警戒想定地区への避難所開設だけでなく、行動喚起情報の伝達、洪水警報後の消防署、巡回時の警鐘、緊急安全確保発令以降の被災情報、状況、交通規制等の情報提供、また、災害時には特に住民に寄り添うことが大切です。被災者宅への3週間後の町長訪問、不親切な対応もあった罹災証明発行手続き、被災された方に思いやりに欠ける発言などがありました。このようなことから町の使命の認識徹底の必要性などです。

気候変動による異常気象が多発する中では、豪雨災害に見舞われることは今後予想されます。このような中で、かねてから「しお風」が興味を抱いて活動してた保全に関係するグリーンインフラ、気候変動の中での防災減災についての講演会も11月2日14時から、二宮町で開催されました。ちょうどこの日18時53分にも洪水警報が出され、道路も川のようになり、また葛川の溢水や土砂崩れが生ずるのではないかと、大きな不安が住民に生じました。葛川の改修は、迅速に取り組んでもすぐに対応できず、葛川の改修だけでなく、川に流れ込む、地上に噴き出す水量を抑える町全体の治水を検討する時期になっています。12月8日には神奈川県平塚土木事務所による今後の葛川整備についての説明会があります。また水害は川の周辺で起こる事ではなく、町では内水の危険性も調査し、浸水想定図を作成するそうです。さらに新田橋から内輪橋まで電柱の地中化工事も始まっています。この機会に町、住民、地区が一丸となって安心して暮らすまちづくりを考えて進めていきましょう。果樹公園に

計画している新庁舎建設について、町民が納得する検証を求める陳情を、今まで2回しましたが、不採択となりました。「しお風」は迅速な新庁舎建設には賛成ですが、果樹公園に計画している新庁舎建設を含むラディアン周辺行政機能等集約事業の基本設計案は、防災上、財政上の観点から危惧し、検証を議員の皆様求めてきました。しかし、多数の議員の皆様にはご理解していただけず、陳情説明の至らなさを、痛感しております。

今回の取材や調査を通して、防災や減災の十分な取組みの必要性を痛感し、実施設計の予算審議をする中で、議員一人一人が必要かつ十分な検証・審議を行って欲しいと考え、再度陳情をすることにしました。洪水浸水想定区域と土砂災害警戒区域に囲まれた町民の先祖が県に提供した土地をわざわざ購入してまで建設するために経費を切り詰め、減額補正分を基金に積み立て、原資をつくってきました。その中で、災害見舞金、弔慰金の大幅な減額、防災人材の育成のための研修費などが削減されました。今までの債務にさらに起債し30年間返済に迫われ、現納税者では返済できず、子ども世代にも負担が及びます。いざ地震や豪雨などの災害が発生したら、能登半島地震や東日本大震災を見ても、災害復興に大金を費やしても住民は命や財産を失い、元の暮らしには戻れません。今回の豪雨災害でも住民に大きな損害を与え、現状のままでは不安は解消されません。いくら耐震化された役場庁舎があっても今までと同じように住み続けるのは難しくなります。新庁舎建設計画予定地は洪水浸水想定区域に接し、葛川と田代川が合流し、浸水が度々起こっていた場所の隣接地。過去には水害もあり、降雨時に水が噴き出すことから、県から無償貸与時に締結された1955年12月22日の覚書には、神奈川県園芸試験場跡地の利用について、第1条第1項第3号に、梨桃の原木の保存用地、第4号に果樹園の公園的な利用、山林の保全活用が、第2項には、災害時の避難のための利用に配慮するものとするが明記されています。狭い幅での葛川整備等からも、防災上の観点からも、果樹公園としていたのではないかと推定されます。気候変動の中での防災・減災を考えた時に、この場所に新庁舎の建設や駐車場を多く、整備することは土地の治水機能が失われ、建物による雨水等の集中増水などにより、内水氾濫を加速されるのではないかと危惧しています。果樹公園や東京大学果樹園跡地はグリーンインフラとして整備し、治水と憩い、自然、防災を学ぶ場として二宮のブランド化を図る場所として活用する必要があると考えます。今回も葛川が溢水した時には、町は東西に分断され、県道西側の浸水被災者への避難所の開設が遅れ、町民センターが避難所として機能したとは言えない状態でした。果樹公園に防災拠点が設置されると、災害時西側への交通が遮断される危惧も生じます。このようなことから、果樹公園に新庁舎を建設することを見直す必要があると思います。

そして迅速に、取組みを検討しなければならない減災対策。また次の4点から葛川改修整備で、想定外の豪雨災害からの完璧な安全が図れないことは推測され、新たな視点からの治水対策も必

要と考えられます。①葛川は昔大きく蛇行していたこと。②現在川の直近まで住宅が建設されていること。③治水機能を果たしてきた山が開発され、住宅地が造成されてきたこと。④J R東日本東海道線高架や国道1号の北側の川幅が特に狭いこと。このような、今後30年借金返済に追われ、人口減よりも急速な税収減、超高齢化や地球温暖化の弊害も生じる2050年問題もある中で、災害が起こっても被害や損害を低く抑える対策。これらの費用を新庁舎建設を含むラディアン周辺行政機能等集約事業をこのまま進めて、二宮町は賄える余力があるのでしょうか。このようなことから、計画予定の新庁舎が防災拠点といえるのか、防災上最優先すべきことなのか疑問です。

どうか議員の皆様一人一人がきちんとした検証を行い、判断理由を住民が理解できるように説明してください。議員必携に記載されているように議会の持つ二つの使命は、具体的な施策の最終決定と行財政運営の批判と監視です。この議会使命を完全に達成できるよう議会の一員として懸命に努力することが議員の職責です。また、議会は住民を代表する議員をもって構成される地方公共団体の意思決定機関で、憲法で設置根拠が保障されているほど重要であり、住民の立場に立って判断しなければならないものです。新庁舎建設を含むラディアン周辺行政機能等集約事業が、基本設計が予算化されたからといって、議会の決定なしに県からの果樹公園購入交渉を行い、町が基本設計で示された案が決定されたかのように公表するなど、議会軽視の振る舞いを許さないでいただきたいと思います。さらに、果樹公園が廃止することに反対する住民も多く、今回被災され大きな損害を受けた住民もいらっしゃる、こうしたことを、町の今後の財政を危惧する住民も多数います。こうした中で、議員の皆様には、責任の重さを十分ご理解いただき、住民の意見を汲み取った判断をし、議会の地位の重要性を示していただくことを切にお願いしたいと思います。

陳情項目1、今回の豪雨災害の、表1のような件数データだけではない、被災状況、問題点の総括と住民への公表。2、将来を見通した町の持続可能なための早急な災害対策の取組みの審議、必要概算経費の算定、捻出方法の明確化、表7に記載した「しお風」が考える取組み例も参照してください。3、将来を見通した町の持続可能都市のため、2の取組みや雨水利用やグリーンインフラ等、新しい視点を入れた町の治水対策からの新庁舎建設を含むラディアン周辺行政機能等集約事業の検証と見直し、以上です。

＜陳情者に対する質疑＞

委員長 はい。ありがとうございます。それでは、委員で質疑のある方はどうぞ。はい。それでは松崎委員。

松崎 ありがとうございます。最近私議員になって感じるのがですね、議員っていうのは、町民の負託を得て議席を得てるわけで、当然そこにはね、民意が反映されてなければいけないというふうに思うんですけども、「しお風」さん、ここに書かれている

ことですね。むしろ私たちよりもね、民意に近いと思うんですけども、この「しお風」さんから見て、今の議会っていうのは、本当にその民意を反映した議会になっていると、思われていないのではないのかと思うんですけどもその辺ちょっとお聞かせいただけますか。

神保氏

多分、二宮町議会に限ってのことではないと思うんですが、やはり今までやってきた慣例の中で、今これだけ時代が変わっています。そして皆さん町民の方もいろいろな意見があるから、取りまとめるのは難しいと思いますけれども、やはりそれを知るには、実際に議員さんたちが現場に行って話を聞き取ることがとても重要だし、それでさらに何て言うんすかね、町から発表されたことに検証していくことがとても大事だと私は思っているんですね。そういった中で今回、3度目になるんですけどこの見直しのことを入れているのが。そういった中で、先ほども出てましたけど、できないとか、まずできないと思ったらもうそれは不可能なんです。まずはそれができるかできないかわからないけど、とにかくその民意を汲み取って一生懸命検証したり、調査して、町に意見を言っていく、町に対して言ったことを鵜呑みにしない、そういったことが民意を汲み取るっていうことだと思いますそして、民意はさっきも言いましたように、様々ですから「しお風」なんか少数意見じゃないって言われるかもしれないですけど、そういったこともやはり、その少ないから一人が言ってるだけだからということではなく、しっかり考えていただくのが、やっぱり議会であり、やはり議会に所属する一人一人、やはり、今14名いるのはそれぞれいろんな立場の方がいらっしゃるという中で、やはりそれは、ぜひ考えていただきたいところだなというふうに思っています。

松崎

民意をどう理解するかってのは、個々の議員というのは、おそらくね、町民のもとに赴いて、話を聞くのが議員の仕事だと私は思っているんですけども。神保さんはですね、その民意を集約するために、民意を理解するためにこういった動きをして、その結果こういうものができ上がったのかっていうのをちょっと教えていただけますか。

神保氏

二宮人口の割にね、今回20名近く取材したなんて本当に微々たるものでそれで言っちゃっていいのっていう話も多分あるかと思うんですけども。私はやはり今回行った中で、土砂崩れの方はね、何人かの方が行っていらっしゃるの聞いたんですけども、私が取材した溢水で、床下床上浸水した方や、それ以外の土砂崩れのあった一色地区の土砂崩れとか、あと中里地区なんかでも、そのあとに行かれたかもしれないんですけど私が取材した後に行かれたかもしれないんですけど、議員さんが来てくれなかったとか、なんかそういう話が多々聞かれたっていうのはやはり、その辺民意を汲み取って、やはりいろんなこ

とを判断するには、実際に被害、私も取材してわかったんですけども、私が想定した以上に大変だった、実際に被災された方の体感っていうのは、相当もう、すごかったし、損害も、えっと思うほど、いろんなことが駄目になったり、いろんな想定もできない、本当にそういうことが起こっているんだっていうことを、やはり知っていただくのが大切だと思うので、ぜひね、個々の議員さんはいろいろ考えがあるんですけどその意見をぶつけ合うことも大事なので、ぜひ議会として調査っていうか、今回も陳情の項目に入れてますけれども、もちろん町に、それを促すっていうこともとても大事なんですがそれを促すためには、議員さん一人一人が実際どうだったのかってすることがとても大切だと思うので、ぜひその辺を調査検証していただきたいなというふうに思います。

松崎

今神保さん、20名とおっしゃいました取材。それで20名を持ってね、何かまだまだ足りないっていうなことをおっしゃってたんですけども、実は私も取材をしました。20名ってすごい大変だと思います。いろんな方がいる中で、20名ってすごく大変だと思います。その中で、私も取材してる中でね、まだまだ議員がね、そういった実際被災者のもとに足を運んで直に話聞くっていうのは、足りないんじゃないかなっていうことを私自身もその被災者の声を直に聞く中で感じたんですけども。そういったことも今ちょっと触れてたと思うんですけども、神保さんから見てですね、私たち議員の、何て言うんすかね。まだまだできるんじゃないのっていうようなことがあると思うんですけども、ちょっとそれについて厳しい指摘をお願いしたいんですけども。

神保氏

皆さんにお渡しした議員の皆さんに渡した陳情資料の表5を見ていただくとわかるんですけども、なんで緊急安全確保発令が出るまで、災害対策本部が1回開かれただけでずっとないのか、そして、表4見ていただくとこれ気象庁が出したものをまとめたものなんですけれども、こうやって気象庁は、町のすべき対応とか住民のとるべき、行動などを指針として、もっと詳しく町の取る対応については書いてあったりするんですけども、ある中で、そういったことが行われなかったのはなぜなのかっていうことを追求していただきたいなっていうふうに思います。それと、先ほど言った実際に被災された方の体感、ぜひやっていただきたいし、もともと何ていうんすかね、町の財政が厳しいということで、災害後、弔慰金等が減額されていますけれども、そういったことも今後の中では見直しが必要なのかなというふうに思っています。

根岸

はい。まず、陳情項目ですね。2番。早急な災害対策の取組みの審議と、概算の算定と、捻出方法の明確化というふうにございます。この災害対策というのは、具体的にはどのようなイメ

ージを持っておられるかというのは、ご存じのように、地震というところで、やっぱり庁舎移転が必要だということが長い間議論されてあの場所に今のところ決まっております。いただいた資料等々を見ますと、やっぱりそれは豪雨対策、災害に対するものということでここに書かれておられるのかなというふうに理解しますがそれでよろしいのかどうか。それとあと、3番、ラディアン周辺行政機能等集約事業の検証と見直しとあります。これは建設自体の一旦中断というものを意味しておられるのか、先ほど迅速に建設するのは、「しお風」様も、そこはそういうふうに思っているという言葉もありましたが、検証と見直しをしていると中断せざるをえないのかなというふうに、思います。その辺り、どのような意味でここにこう書かれたのかということをお伺いいたします。以上です。

神保氏

今、その豪雨対策でしか言っていないのではないかっていうお話だったんですけども、地震があったときも、実際に土砂崩れとか流木が、葛川の方に入ったりとか、それとやっぱり地震があったことで揺らされたことで、普段こうなんていうか、土地が蓄えてたものが溢水するっていうことも、十分考えられるので、そういったことでは、今回のことをもう一度ちゃんと検証して、考える二宮全体の治水対策っていうのは、豪雨だけじゃありませんので、地震のときも治水ってとても大事だと思うので、そういったことを、今回は豪雨でしたけど地震のとき、想定される大地震が来たら、本当になんていうか溢水、治水、それはもう重要になると思いますので、決して豪雨対策についてのことで、陳情しているわけではありません。それから、何ですか、その豪雨対策の中でも、ちょっと何ていうんですかね、他にもそうなんですけど水っていうのは、出たらすぐ引くみたいにならねばならないんですけど、決してそういうことではないし、水の流れてすごく怖くて、今回取材してもわかるんですけど、いわゆる何ていうかぶつかったり障害になるものがあると、思わぬところにこう流れてしまって、思わぬ被害も出るということがあるので、そういった中で、やっぱり全体的にその治水っていうものを考えていくことが必要ではないかと私は思っています。それから、中断が必要ではないかって言ってるんですが、今、今回もその予算のために何でしたっけ、文化財発掘調査が盛られていますけれども、あそこってもとともと遺跡がこちら側にも出たところなんで、そう簡単に多分こうやって、ありませんでした終わらないんじゃないかなって私は思っているんですね。そういった中で、実際にそこでやったときに、迅速なのかなって思っているし、変な話ですけど、真剣に考えて、みんなで取り組めば、そんなに、何て言うんですかね。よく、何ですか何とかの法則ってよく言うんですけど、時間って区切ってここまでにこれをやらなければいけないって決まれば短い中でもできるし、それが無い中でやるとなるとどんどんどんどんずれ込んで長くなっちゃうっていう理論がある

ぐらいですので、そういったことで私は、中断っていうか、そこで真剣にもう一度考えるっていうのは、そんなに、長い期間を要さなくても大丈夫ではないか、文化財の調査に入って、実際にどうなるのかなって、また長くなってしまうんじゃないのかなっていう危惧もある中で、私はそうは考えていません。それと、やはり雨だけじゃなく地震でも先ほどのように、溢水、葛川の溢水は考えられることですので、そういった中で、実際に今回もそうですが、西側に住んでいる葛川の反対側の西側でも本当に住宅地が張りついている中でどうしていくかっていうのはもう近々に考えなければいけないで、さっきの話じゃないけどそれこそ、それは近々に考えて実行して、でき上がるまではすごい長い年月がかかります。ですから、やっぱりその辺をしっかりと考えて今回のことがここで本当にいいのかどうか、果樹公園でいいのかどうかっていうのは、考えていただきたいなと私は思っています。

根岸

そうすると、治水がすごく大事だなあというのは、前から言われていたにもかかわらず、やっぱり今回のことで、また、より一層を強く思わざるをえないという状況にはあると思います。で、今のお話ですと、その対応、対策がきちんと示されない限りは、やはり果樹公園という場所に決定するかどうかをストップすべきだというお話に聞こえましたけれども、中断とはおっしゃってはいないにしても、決まらない限りはやはり果樹公園のところをストップして、そこを検証しなければいけないと、いうふうなお話かと思いました。それと、違うということになりますか、ちょっともう一度その理解を、教えていただけますでしょうか。

神保氏

議員の皆さんが、本当にそういった、今私が指摘したことたことを、想定して、きちんと考えられて、こうだから神保さん安心であそこ大丈夫なんだよと、説明してくださったり、町の方もそれを説明してくださるんだったら、それで、そうなんだそういうことだったんだって、思えばいいんですけど、今までにそういったことがないんですね。検証は不可能だとかこんなことはできないとか、そういうことではとても納得ができないんです。住民の人たちもやはりそうだと思いますし、私今回も書いたんですけど、やはり葛川整備を今までしてきた中で、県って、わからないですよ想定で違うって言われちゃうかもしれないんですけど、やっぱりあそこ果樹公園にしてた、守っていたっていうのは、やはり防災、葛川のことも含めて、田代川と合流している。あそこはどうしても被害が起こってしまうところだという、ある程度の中で減災していこうっていう中で、果樹公園になって、防災、減災を行ってきたのかなっていうことを感じています。昔の、先ほどちょっと指摘したのかなんですけど、治水対策の中でやっぱり葛川は昔大きく蛇行してたし、昔はあの辺、いや、何ていうんですかね、J Rの南側も、皆さ

んなんていう水田地帯だったんですよね。だから、いわゆる災害が起こっても水が水田に入り、ある程度被害が、それ抑えられた、いわゆる住民に対する、特に命の心配はなかったと思うんですよね。そういったことも含めて、きちんと今本当に、西側の方たちあんな直近に家が建ってしまったことで、皆さん被害者、自分がこんなところに建てちゃったから悪いのかなっておっしゃるけど、やはりそれって、ちゃんとした視点を持って、都市計画をしていく中で、行政が対応していけば、そこに、どうにかなったと思うし、また止水板などを本当に今までも水害があったので考えていただければ、そんなことはありえなかったと思うので、その辺を十分に想定した中で、実際に庁舎建設とラディアンあの辺一帯を整備するところにお金を使うことで、本当にこれからそういった治水対策をするための費用、まだ今後学校と施設とか、実際にこの今あるところを解体する、ここを解体するとか、様々な費用が明らかにならない中で、またラディアンについても、年間幾ら赤字を出してるんですか。ああいったところで、実際に、今後こういうふうにするから回収できるんです。先ほどYouTubeも危惧される中で、いや、ここでお金稼ぐことだってできるんですよって、請願者の方が言ったみたいに、こういうことをするから、お金は収入を、建てることで、今回やることで、収入が得られるんです。だから安心してくださいって言葉があれば、そうなのかって考えられるんですけど、これから本当に人口減するし、これから多分災害はたびたび起こると思います。そういったことで中でどうしていくのか。今回も本当に皆さん個人の方もそうだし、実際にここのお店をやっている企業の方たちにもインタビューしました、何だっけデニーズとか、何トヨタ、トヨペット、そういった中でお話聞くとやはりすごい大きな被害額だったし、対応するのも驚きだったし、もっと情報が欲しかったっていうお話、特に何ていうんですかね、皆さん、地元の方じゃないし、新築しているおうちの方たちも、どうしてそういう情報を、みんなだから近くの方は知ってる方は嵩上げて家を建て直したと、じゃあ、新築する人にどうしてそういう情報がなかったのとか、いろいろ聞きましたので、そういったことも含めて、やっぱり情報提供の大切さがとても重要だと思うんですよね。そういったことが実際にちゃんときちんとできるには、やはりそういう体制を作らなきゃいけないと思うんで、そういったことも含めて、その建物ができたから安心ということにはならないんで、それもやって大丈夫ですよ、ちゃんとこうやってやってこういうふうにも考え、先ほどももう実際に次建てたら、YouTubeでやるつもりでやってるんですよとか、様々なことが必要だと思うし、建物をあそこに建てたときにやっぱり、土地の治水機能ってすごくあって、建物が建ってしまうと今まで雨水で土地に、土に、土壌に吸収されて保つ機能がなくなったものがなくなってしまうと、建物ができると建物から落ちて、そこに一時的に多くの水が集中してそれが、何ていうんですか、雨水とな

って、川に排出されてることが起こるんですけれども、そういったことも十分に考えてやってるんですから神保さんそんな心配いりませんよって言うてくださるんだったら安心するし、そういったことも含めてお願いしたいし、この次の陳情の中でもあるけれども、二宮って本当にグリーンインフラでも言うてましたけど、その土地がどんな土地なのか、歴史としてどんなことがあったかっていうのはとっても大事にしていかなないとこれからの、減災ができないっていうお話をされてましたけれども、そういったことを十分周知して、果樹公園を選択したのかっていうこともお話を伺いたいと、説明を伺いたいと思っています。

根岸

ちょっといろんな思いが、ちょっと私も桜美園時代の過去の思いも今ちょっと出てきたりあったんですけどすいません、それは余談で、あのあたりの土地は、昔の水害の方が、やっぱり死者の方もおられたりして、それでもいろいろな最近になって、治水を考えなければいけない状況ということではない、やっぱり歴史的な背景というのはあると思います。今があって、私は治水、新庁舎建設、総務の方でもですね、そんなお声も、この間の大雨もあつたりなんかして、総務の提言でも防災治水対策をして欲しいということを盛り込ませていただきましたし、それからまた治水とは別にその河川流域でどうするかとか、県や国との協力関係も大事でしょうし、そういった中で、庁舎とはまた別に、別にとというか、庁舎は庁舎でやるべきことはやる、治水に対してのね、とはまたそれだけでは済まない、整備計画だけでは済まない治水の部分をしっかりやっていくべきことということで、庁舎とはまた別にそちらの方の事業も進めていかなければならないと思っています。で、要はですね、この庁舎のことを進めながら、今までも検証を繰り返していきながら、今の形になってます。なので、庁舎のことを進めながら、「しお風」さんの思いを汲み取るような内容も、見直しをその中で、やはり意見交換をしていこうというような取組みでは、何て言うかな。許せないというかそれでは駄目だという話になるのか、ちょっと、要するにストップするのかしないのかという辺りをね、私としては、この12月にも控えているものもありますので、ちょっとその辺りをもう一度確認をさせていただきたいんですけれども。

神保氏

何て言うのかな、やはりそれぞれの考え方の違いはあると思うんですが、私がこう見ている中では先ほども申しましたように、十分に実際に「しお風」の何ていうか、今まで否決、不採択になった理由には、検証は不可能とか実際に書いてお答えをいただいてますので、実際に検証されたのかなっていうのを今検証してきたっておっしゃってたけど、私はそうは思わない、不十分だと思います。それとやっぱり、何て言うのかな、自然の脅威っていうのは、本当に、今回も取材して、もうびっくりしち

やったんですけど、泥水っていうのは、思わぬことを起こすということが、皆さんなんか川の流れがただ速くなって、いわゆる道路が川の流れのようになってるっていうことではないんですよ。そういったことも十分承知をしていただきたいし、そういった中であれだけの何ていうんですかね、果樹公園のようなところに建物を建て、駐車場を作り、そういった中でどれだけその土地が持っている治水機能が失われるのかっていうのは、非常に心配してるところです。確か渡辺議員もそういったことから、植樹とか外構をどうするのかって質問があったけどその時の答弁でも、その辺のことはちょっとわからなかったもので、今後の中で、実際どうしていくのかなって思いますし、非常に心配しているところです。それと、普段の幾らハード施設ができていても、ソフト面がきちんとできてなければハードは機能しません。そういった中で今回すごく危惧したのは、何でいきなり、これ表を見ていただくと、非常に洪水、大雨警報から始まり、この土砂災害警戒情報、洪水警報、大雨警報、土砂災害、浸水害出ているこの流れが、本当に気象庁は考えてこういうふうにならざるを得ないからこうやっていくんだなっていうのがわかったし、実際に体感した人たちの話も聞いてると、そういうことだったのかっていうのと、かなり合致する部分があるんですけども、そういう中で一旦、雨が、1日の1時間雨量が弱まったからなのかどうなのかはわかりませんが、なぜ、本当に第1回災害対策本部から、実際に開かれないで、実際に緊急安全確保ってどこで話し合われて決まったことかもわからず、そういった体制で、庁舎が建つことを非常に危惧しています。それと、さっきも言ったように私が考える治水対策ってかなりやっぱり、時間もかかるし、それなりのやっぱり人員体制も必要だと思うので、そういった中で、ここで庁舎に注力してお金も出て行き労力も出ていった中で、実際二宮町、それをやる余力があるのかっていうのが非常に心配です。その辺をしっかりと、議会の議員の皆様は受けとめていただきたいなと思っています。

野地

はい。ありがとうございます。治水の対策は、14人全議員がね、求めているもので、早急に進めなさいという考えに違いはございません。質問になります。地震なんですけどね。6から7、直近で、70、80というものが5つも6つもあります。ご存じのよう二宮町の周りには断層が幾つもあります。という中で、地震を特に私は気にしているんですが、現在の災害対策本部、この庁舎での災害対策本部の動きとかね。どういう形で今やってるのとか、ご存じかなと思ってます。それで、今のこの庁舎の災害対策本部の設置から、運用まで考えて、いざその地震が起こったときに、町民の生命守れると思ってますかという質問になります。要するに現状把握されてるかなってのは今非常に心配なんですけど、災害対策本部に対してのご意見をください。

神保氏

大変失礼だと思うんですけども今回、災害対策本部でどうなってるのかなと思って条例とか調べたんですけど、なかなかどう動いてるのかって、議事録も請求したけど、請求とか言ったけど、無理みたいだったんで、そういったことで、どうなっているのか私は知りえません。ただ、この表面的に出た発令の見ていてこれでいいのかなってというのは、誰もが感ずることだと思います。そういった言ってるようにソフトとハードって違うし、ごめんなさいね治水対策早急に進めなければならないってのは誰も持ってると思います。だけど、治水対策、根本的に、国なんかも今、いろんなこと考えてますけれども、それってやっぱり時間がかかるし、労力もかかることなんで、そういった中で、実際にここでお金と労力を使うことで、大丈夫なのかなって私は危惧しています。例えば、治水対策なんか国、国の何かあれでちょっと読んだんですけども、それなんかだと考えてるのは今空き家がすごく多い中で、空き家対策も含めて、実際に移動させるとか、そういう危ないところはそういうことも考えてるんですね。でもそこまで踏み込んだときに、じゃあ、それだけの労力、それから、費用をかけられるのか、実際に今本当に住宅が西側はりついてる中では考えなきゃいけないことなんで、早く早急に進めてくださいじゃなくて具体例として何やるか。ここの取組み、例でもそうなんですけれども、すごく今回も思いましたけど町は、議員さんたちも自助が大事だっていうのをすごく訴えてますよね。でも自助に必要な情報が、今回、私は得られなかったと思うんですね。そういったことも整備しなきゃいけないし、はい。それとやはり今の中で実際に職員の方はすごく話も聞いて、どれだけ大変だったかっていうのも聞いております。でもそうやって一部の職員の方たちが非常に苦労してるだけでは、とてもこれから対応をできなくて、本当に住民も巻き込んで、そこにある企業も巻き込んでやっていかない限り難しいんだろうなと思うので、そういった部分で、今後どうしていくのか、非常に検討を、ただ、早急にやってね、はいわかりましたじゃなくて、もう少し踏み込んだ中でやっていかないと、早急には進められないんじゃないかと私は思っています。

野地

災害対策部門の中の言葉っていうのはなかなかわかりにくいと思います。では災害対策本部図上訓練をやりますけども、見学されたことがあります。中で、誰がどう動いてるかっていうのを私は見て欲しい。とてもじゃないけどって思うんですけど、それはご覧になったことがありますか。

神保氏

はい。お話したんですけど私は庁舎建設皆さん誤解されてるんですけど反対してるっていうふうに思われてるんですけどそれには賛成なんです。それも迅速にやらなければいけないということも十分に、知っているんですが、今の状態でやっていって、実際にそれが私が考えて、「しお風」が考えている取組みなども

含めて、実際に、進んでいくのかっていうことに対して、今回これに本当に注力しちゃったときに、大丈夫なのかなっていう危惧が非常に強いもんですから、としています。それと、地震については、やはり普段からのそういったことで、全く人が亡くなることがなかったりとかいうことはありえないかもしれませんが、やはり減災できるところは減災できるし、被害を少なくすることって、できると思いますね。それと。

小笠原 委員長。質問にちゃんと的確に答えてもらうよう言ってください。

委員長 はい、神保様。今図上訓練に対して、委員が質問しましたので、図上訓練を見学したことがあるかどうかということをお願いいたします。

神保氏 ごめんなさい、小笠原さん。そんなに詰めないで。図上訓練ですが、すいません、ちょっと情報を得てなくて、見に行けませんでした。実際に、ちょっと議員さんとか、町の方に確認したいんですけども、図上訓練を実際に見に行った人とか、どういう人たちが行ってどういうふうに周知してやっているのかなってちょっと思ったんですけど。

委員長 陳情者に対してちょっと確認しときます。質問はできませんので申し訳ない。ご理解をお願いいたします。はい。野地委員

野地 はいありがとうございます。あのね陳情項目の3つ目を行った場合に、さらに遅れます。どう考えても遅れます。その遅れた分がやはり大きな地震のね、確率が高くなる、その分は。ということは町民の生命も危うくなるっていうのを心配するわけなんだけど。それでも仕方ないと。大きな地震が来たその時ときはその時、もうここでできる範囲やってくださいよっていう思い、お考えでいらっしゃいますか、っていう質問です。

神保氏 そうは言っていないし、その辺のことも含めて、きちんと納得できるような、お話を伺えたらなって思うんですけど。なかなか私が理解不足なのかもしれませんが、わからない状況です。現庁舎についても、一応昔建築家の人と一緒に見てもらったりして、とってもその耐震上無理だということは、ここ何ていうか改修してやることはもう、もう抜本的に無理でしょうという話は聞いて自分もそう思っていますので、それは考えていないんです。ただ、心配なのは、早くやんなきゃいけない、早くやんなきゃいけないって焦ることで、いろんな視点を踏まえて、議論が十分、今回して欲しいなっていうことで、これを出しております。

委員長 はい。他の委員で、このまま進めさせていただきます。はい。

大沼副委員長。

副委員長

はい。ちょっと2点、お伺いします。この資料、ものすごく詳細に調べられてるんですけども、これ調べるのに相当時間がかかったんじゃないかと思うんです。そのあたりのところ、実際どうだったのかというところをちょっと伺いたい。あと、これ調べていく中で、この映像の中でも、画像ですか、画像の中でも、かなり浸水の浸水深っていうんすかね、それが深い、そういう画像もあったりするんですけども、実際にこの調査されてる中で、町民の人命に関わるような危険性がどの程度感じられたかっていうところ、なかなか数値では難しいんですけど、どの程度のその脅威感というものがあったかをお伺いしたいと思います。

神保氏

調べたのはやっぱり期間的には結構かかったんですけどもそれと初めは、躊躇した部分もあったんですね、人が被害に遭ったことを取材に行くことに対して、受け入れられるのかっていうのがあったんで、ちょっとその調べに行く時間がかなり経過してから伺って、その時に私が直に言って難しいかなと思うのはその人をよく知ってる人を通してお願いに行ったりして、大体の方がお話をいいですよということで、受け入れてくださったので、聞くことができたっていう状況です。それと、中には、自分のこの被害の状況、それとその恐怖を皆さんに伝えて欲しいから、ぜひ「しお風」で書いてくださいって言われた方も何人かいらっしゃいました。そういったことで、今回すごくこの「しお風」書くにあたっても、非常に何て言うのかな、何回も何回も書き直したりとか調査するのも、ちゃんとしなきゃいけないなと思って整合をどうやって合わせていくかっていうのも調べながら、やって、取材した後、実際に「しお風」ができたところで、皆さんにこの画像載せてもいいですか、いただいたものもありましたので、いいですかとか言って確認して、快く了承していただきましたし、話を聞いてもらって、非常にうれしかったって、町から来る職員の方たちって、表面的ななんていうかデータのなことしか聞かなくて、実際にその方たちがどういうふうなことが起こってどんなに恐怖心を味わったっていうことが、なかなか聞いていただけなかった。それと、今回もそうなんですけど、個人では、相手が大きな民間企業であったりとか、そういったところに話ができない。そういうことで町にどうにかして欲しいって言っても、相手が民間ですから、町は何もできませんっていうお話だったっていうんです。それで自治会が動いてくださって、どうにかできたっていう話もありますけど、皆さんそういうふうな、大変話を聞いてもらって嬉しい、どんなに大変だったか苦しかったか、聞いて欲しかったっていうふうな感じでした。それから、人命のことなんですけれども、実際にこの画像で、言うと、画像5ですね、これってこのところが、物置小屋なんですけれども、ここに、ぶ

つかってもう見事、何て言うのかと、そこにあった位置から動いて、もうめちゃくちゃになってるんですけども、その時、ちょうどここに住んでられた方の話を伺うとやっぱり心配になって、外を見に行ったそうなんです。本当に本当に一歩違えば、その倒木が自分を襲うし、倒木がたまたま斜めに入ったから家を直撃しないで、済んだけれども、ここもやっぱり高齢者の世帯で、ご主人はもう歩けない状況だったそうなので、本当にもしこれが直撃したりとか、またはその道にその方奥様が外に出てみたときに、もう本当に土砂を全部かぶったんですけど、本当に本当に一瞬で直撃されてたかもしれないっていう恐怖心。で帰って2人で、もう怖い怖いどうしようって感じで、家の中で縮こまってたっていう話でしたので、そういった本当に違うところもありますし、あと、葛川の溢水の中でも、高齢者を抱えている方たちが、もうどんどん水が入ってくる中で、畳は浮いちゃって歩けない状態になってしまったのをどうにか家族で、この寝ている高齢者の方をどうにかやっとうろろと2階に運ぶことができて、命が助かったけど、これが運び切れなかったら、多分おばあちゃんは、命が駄目だったかもしれないとか、そういう話もされてたし、何ていうんですかね。本当に自分が想像する以上に、非常に、何て言うの、水の力って恐ろしいほどの、その何ていうんすかね、床下何センチじゃない、床上何センチっていう問題じゃなくて、本当に怖い、全く歩けないって言ってました。畳が上がっちゃって、それで、結局おばあちゃんを2階に上げるために、1階にあった大切なものっていうか、重要なものとか、そういうのを全く動かせない状況だったのでほとんどのものが、ゴミになってしまったっていうことで非常に大変だったっていうお話は伺いました。

委員長

はい。他にございませんか。はい。それでは、これにて質疑を終了いたします。ここで執行者側の委員の参考質疑がありましたらどうぞ。はい。根岸委員。

根岸

もう時間が時間でして、陳情者の方で傍聴者の方も来ていただいている中、申し訳ないですけども、ここで一旦お昼休憩をとっていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

委員長

休憩とるとなると、1時間ほどかかる。皆様、それではここで暫時休憩といたします。皆様のご意見お伺いいたします。お諮りします。よろしいですか。それでは休憩の後の再開は、午後1時40分からとします。よろしくお願いいたします。

休憩 12時35分

再開 13時40分

＜執行者側への参考質疑＞

委員長

はい。それでは休憩前に引き続き会議を開きます。先にお知ら

せいたします。この後傍聴議員の発言なのですが、本日大変時間が押しておりますので、大変申し訳ございませんが、省略とさせていただきますと思います。ご了承ください。これより執行者側への委員の参考質疑がありましたらどうぞ。はい。渡辺委員。

渡辺

はい。一点、確認をしたいんですけども、もともと、法務局横に計画されていて、今の計画では、果樹公園のところに庁舎を整備すると。その間、途中では何か二つ両論併記みたいな時期もあったと思うんですが、最終的にその現状、現提案に至ってる経緯についてね、ちょっと私も不確かな部分がありますので、その辺をちょっと教えていただければと思います。お願いします。

施設再編課長

はい。渡辺議員のおっしゃる通りですね、当初の計画においては、町営第1駐車場、法務局の横で計画をしておりました。そもそも当初から平成29年度の整備手法調査の頃から、やはりスピード感を持って整備しなければいけないということで、町有地である、かつ一定の面積があるということで、ラディアン周辺の中の第1駐車場ということで選定しておりました。その中で、浸水洪水区域の話になりまして、当時は、途中で県のマップの改定もありましたけれども、最終的に千年に一度の洪水浸水想定が来ると、やはり浸水する可能性がゼロではないと確率が低いとはいえ、97センチですかね、千年に一度の確率で97センチ浸水する可能性があるということが非常に大きな議論の焦点となっております。

その後、令和2年度に町民アンケート、一般公募1000人を対象にしたアンケートを実施して、それによって公募によるワークショップの参加者を募って、募集による参加者の方もいらっしゃいましたけども、その中で様々な議論があって、専門家のお話も聞いて、その結果をまとめとしてシンポジウムということで実施いたしました。結論としましては、この新庁舎の建設に設計に入る前に、新庁舎駅周辺公共施設再編計画の中でまとめておりますけれども、それぞれの第1駐車場と果樹公園を比較した中で、どちらが良いかという評価をしております。シンポジウムの結論ワークショップの結論としては、もちろん様々な意見があったんですけども、やはりラディアン周辺に公共施設を集約することは町民の利益になるという理解でおります。様々な意見はございますけれども、なぜなら、バリアフリーで駅からも近くて、駐車場も十分確保できて、あらゆる場所からアクセスしやすいと、誰からも認知されている、また緊急輸送路にも接しているという様々なメリットがあるねということで、理解をされています。ただし、当時からやはり洪水浸水想定区域であるということは、当然お示ししておりましたし、今回のリスクもきちんとご説明して当初からですけどね、令和元年当初からご説明しておりますけれども、それは、何ら変わるものではありませんので、たびたび議論にも

なっておりますけれども、やはり町としては、想定していた内容で、今回の想定範囲内って言い方ちょっとあれですけども、やはりある程度被害が出ておりますので、ただ、当初の計画としては織り込んでいたという部分ではございます。結論的には、果樹公園を取得してでもこの計画の中では、少し高台であって、庁舎の敷地自体は浸水しない。ただし周りが浸水するということは、当時も記載しておりますけれども、その中で、例えば、周りに住んでる方も、一時的に身を寄せたり、避難をできるような場所、安全のお裾分けという言い方は当時東京大学の加藤先生もおっしゃってましたけれども、そういった場所であるということも踏まえて、果樹公園を選択したということで、町は考えております。以上です。

渡辺

はい。今それでご説明の中で、洪水浸水区域が、この周りにね、あるというハザードマップからのお話はあったと思うんですが、今回いろいろ言われてるのは、庁舎を建てることによって、治水に対する影響とか、そういうのがあるんじゃないかという心配だと思うんですけど、その辺の論議っていうのは、どの程度されてたんでしょうか。

施設再編課長

はい。具体的には、その議論の中では詳細はなされていなかったと思います。ただ当然開発する中の建設するにあたって、敷地の造成であったり道路を引いたり、新たな下水道引いたりっていう、公共施設の整備が伴いますので、開発するにあたっては、従前よりも、悪化させることがないように、配慮した設計を今回、基本設計の中ですね、河川ですね、流出先に負荷を与えないような設計に配慮はしております。以上です。

善波

防災課の方に今お聞きしますけど、陳情内容の、中ほどにあります1から8までの項目、これについて、今後の対応策なり、検証、検討をしたかどうか。項目別に進んでるところまで報告してください。

防災担当参事

はい。今回、被災をされた方が多く出てしまったということで我々の方の情報の発信ですとか、あと人員の体制等々について、見直しをさせていただいたというような経過がございます。この順番通りっていうことは、難しいんですけども、まず今回前日から警報が出て、土砂災害警戒情報等出ましたので、レベル4の避難指示相当のですね、出させていただいたところなんですけども、朝方急激な雨が降ってしまったという中で、そういった情報、住民への情報が、伝達が適宜な時間帯に出せなかったというご意見を、多数いただいているというようなところで、そこについて今後、対応していきたいという中で、何度か、そのあとに、雨が降った経過があるんですけども、その中で今までエリアメールですとか、そういったエリアメールにつきましては、避難指示等を使うようなものなんですけども、浸水がで

すね葛川の増水等についても、そういったものを使っていこうというようなことも検討させていただいて実際に使わせていただきました。また今回人員が非常に朝方体制が少なかったというような状況がございまして、混乱を招いた。特に、葛川が溢れる前から、多くの町民の方から電話等が逼迫したというようなこともございましたので、その辺も含めて、今人員の方、体制整備について調整をして進めていきたいというふうに考えているところであります。以上です。

善波

今のようなことは、防災課の方で共通認識で、対応策を考えてるってことで理解してよろしいですね。

防災担当参事

はい。防災のほうで調整をして、職員の方にも調整して、今後進めていきたいというふうに考えているところです。

根岸

ちょっと担当課がどうなのかわかんないんですけど、治水が大事だというお話が陳情の中からもあります。流域協議会、流域の方での協議会始まって話を始めてるということですが、そのあたりの議論はどうなってるかわかる範疇で教えていただくことが可能でしょうか。それとですねやっぱり治水対策を別途、きちんとやっていかなく、きちんとやっていく必要があると思う中での、その治水対策への考えは、防災の方でもお答えしていただける範疇で、ちょっと考えとして共有しているものがあればね、町の中で共有しているものがあればお聞かせください。あと、この「しお風」さんにも載っている3ページのこの表の中にもいきなり緊急安全確保ですかって住民は避難も準備できませんでしたと。で、今の善波委員の質問の中でも、なんかちょっとありましたよね。適宜な情報は出せなかったというふうなお答えがありました。実際には、やはりちょっとこのレベル4の発信、緊急安全確保が遅れたんじゃないかという、町としてはそういう認識になっているのか。その前はどのような状況だったのか。ということ。で、緊急安全確保警報ですね、警報というかその連絡発信のときには、具体的にはどんなことが事前に行われながら、ここに至っているのかを。はい。以上です。

政策部長

初めに、治水の関係なんですけど、神奈川県、二宮町、あと、中井町、秦野市もあったかな。そういった広域で検討していかないといけないから今後そういった体制を作っていきましょうというお話は聞いておりますが、現在どういった動きをしているかというところまで、我々は承知をしております。また治水についても、町でどこまでやるのか県がどこまでやるのかという部分で、基本的にはその県の仕事ということになるかと思うんですが、広域の協議会の中で、今後検討が進むのではないかなというふうに、ちょっとこれ以上は情報を持ち合わせておりません。

防災担当参事

はい。それではレベル5について、遅かったんじゃないかというようなお話をいただきました。まず、土砂災害警戒情報っての前日に出ていまして、これがレベル4の避難指示相当の内容になってますんで、町の方は、避難所を開設して、葛川沿いの方ですとか、土砂災害に近い方に、避難をし、必要な方は避難をしていただくということで、地域の集会所についてまずは開設をさせていただきました。その後、洪水警報という形で夜中12時近く出たんですけども、このときは30ミリぐらいの雨でしたので、夜中に避難をしていただくっていうこと非常に危険な場合もございますので、このときは様子を見て雨の方も落ち着いたというような形がありました。朝方4時から5時ぐらいから、特に6時半から大きな雨が降りましたが、その中でレベル5を出した経過につきましては、もう溢れていた状態がございましたので避難をしていただくとか、そういった状況ではなかったんで、とりあえず、住民の方に身の安全を守っていただく、例えば1階の方は2階に行ってくださいですとか、土砂に近い方は土砂から離れて部屋に行ってくださいというようなことを願って警戒レベル5というような緊急安全確保を出させてさせていただきました。これを出させていただくにあたっては、町長と、調整、事前調整して発信をするというような形で、やらせていただきました。ですからその前に、やはり葛川が増水しているというようなことが、多くの住民の方からご意見いただいておりますので、そういったことを、今後、できるような体制を、進めていきたいなというふうに考えているところです。

根岸

やっぱりその場でわかる発信というのが、住民の方からもね、ホームページ見ろって言ったってわからないよとか、いうお話もあったりしてやっぱりその場でわかる発信というのが、いかに大事かということがあったかと思います。避難された方は避難したという状況もあったようですけども、何かこうその準備から、何ていうの水を止めるために人手もいて、そういうところの準備からもね、人が入るとか、具体的には、やっぱり発信の仕方と、あと、事前の現場への入り方ですね。そのことについて、具体的対策としては、もうすでに用意ができてると、いうことで、よろしいんでしょうか。というのが一つ。あとですね、何か治水対策なんですけど、やっぱり日本全国浸水をしてるところってのがあって、結構5年10年スパンかもしれないですけどもロードマップ作ってるような自治体も結構あると思います。あとそういうこともちゃんと見せていくっていうのが大事だと思いますが、それについては、住民に示していくというところが大事だと思うんです。町がこういうね、考えてますっていうこと。それについてはどのように、防災の方ではお考えになりますでしょうか。

防災担当参事

はい。それでは最初の方の現在行っている対応ということでお

話させていただければと思うんですけども。実は8月30日の翌日、8月31日の土曜日の夕方、非常に大きな雨が降ってですね、葛川が増水をしたというようなことがございました。このときには防災無線で連呼するような形で、住民の方にお知らせをさせていただいたんですけども、溢水には至らなかったんですけども、やはり防災無線聞きづらいよっていうご意見もその後も、いただいたりしました。10月から公式LINEっていうのが始まりまして、これは登録していただければポップアップで防災無線の内容が、確認できるというようなこともございましたので、こういったことを10月以降は周知をさせていただいております。また各市町村が防災の担当者が集まる会議があるんですけども、その際にも、各市町村の河川増水の取組みというようなことで確認をさせていただいたんですけども、実際に避難指示だけじゃなくて、小田原市なんかは、河川が増水したときも、エリアメールを使っているというようなことがございましたので、11月2日土曜日夕方に、やはり大きな雨が降りまして、溢水するような状況だったんですけども、この際は、エリアメールを増水のエリアメール初めて使わせていただきまして、その時職員が監視にも行ってたんですけども、多くの方が、エリアメールを発信した後に、川の状況を確認したりですとか、もしくは車を移動されてるというような姿があったというようなことがありますので、今後も様々なツールを使いながら、必要な方に情報が届くような形でやっていきたいなというふうに考えております。もう一つの治水の関係なんですけども、防災の方の立場でということなんですけども、治水の方は細かく関わってない部分がありますので、その辺は今回はご回答を控えさせていただければと思います。

根岸

ツールも大事だし、より広くというところでよくメールとかっていうことが言われます。それはそれで大事だと思います。実際には、人が出ていって、声をかける、という作業である。人手を介して、予防策的に、場所に入っていくというのは、事前には実際には難しいということになるんでしょうか。

防災担当参事

はい。人がという広報無線、車両、広報車両を使って、過去は葛川沿いの方々に赤灯とか回しながら、増水してますよというようなことで行っていました。今回も同じように消防の方に依頼をして、広報無線で葛川が増水について周知をしていただこうと思ってたんですけども、本当に急激な雨が来てしまって、消防車両も沿岸まで行ったんですけども、もう半分ぐらいすぐに埋まってしまうというような状況があって、その作業は今回はできなかったということがあります。様々なツールも含めて、やはり過去の災害を見てみますと、やっぱり隣近所の方の声掛けっていうのが非常に、避難ですとかそういった早めの対応に繋がったということもございますので、我々防災のソフト対策で地域の自主防災とか関わってますので、ちょっとそんな

こともですね今後周知しながら、各地域、それぞれリスクは違うかと思うんですけども、そういったものの把握、また対応について、役場の方も含めてやっていきたいなというふうに考えております。以上です。

松崎

はい。陳情項目の維持関連になろうかと思うんですけども、葛川の豪雨災害の問題をめぐっては、ソフトとハードに分けてですね、ハードに関してはこれやはり二級河川ということで、県が主体となって動くのはそれはその通りなんですけれども、ソフト面に関してですね、特に注意喚起等々ですねこれはもう町が主体となって、もう幾らでもやることがある、どんどんやらなきゃいけないっていう状況だと思うんですけども今回ですね、重複しちゃうんですけども先ほどから善波議員も根岸議員も質問されてた内容と重複するんですけども、やはりその辺が不十分だったっていう現実はあるわけなんですよ。そうした中でですね、やっぱりその被災者の立場からするとね、全然顔が見えない。しかもこれだけ経っても、おそらくここにその陳情項目として書いてあるってことは、ソフトとしての注意喚起が不十分だったっていうことをですね、被災者に対して、何ら説明してないのではないかなと思うんですけども、本来はね、もう可能な限り、やはり被災者のところに出向いてですねそういった説明もすべきだと思うんですけども、そういったことはされているんでしょうかね。

防災担当参事

はい。被災された方の罹災証明等も含めて、担当課のほうは行ってますし、私もちょっと時間経ってしまったんですけども町長と一軒一軒回らしていただいて、一応いろいろご意見、承ったという形でございます。今後も、被災者、被災されないことがいいんですけども、今後もしそういったことがあった場合には、やはりそういったチームも作って早急に対応していくっていうことが必要だなというふうには感じておりますので、そういった対応を含め、今後検討していきたいなというふうに考えております。

副委員長

この陳情の内容に対してご列席されてるんで、この被災状況っていうのは熟知されているというふうに理解した上で、質問します。まずですね、それぞれの担当課でですね、もしご自身の家がですね、浸水した場合ですね、その後どのように町に対して、思いを持つかということを伺いたいと思います。それとですね、先ほどから陳情者の方から理解の得られる説明ができますかということを何度も聞かれました。ぜひ今その理解の得られる説明をしていただきたいと思いますので、その説明をお伺いしたいと思います。

委員長

大沼委員、具体的にマイクを通して、質問内容をお願いします。

副委員長

この陳情書の中にあった内容ですね、ありましたよね。理解を得られる説明をいただきたいということを先ほども陳情者言っておられました。この災害、災害ですね豪雨災害と、それとあとはこのラディアン周辺の行政機能等集約事業っていうところの部分についての、その納得のできるような説明っていうのがあるのかどうか。あれば、お伺いしたいと思います。

政策部長

はい。ちょっとどの辺りが理解を得られる説明、ちょっと多岐にわたっていますので、ちょっとその辺り、何て言うんでしょう、的確な答えになってるかどうかっていうのは、ちょっとわからないんですけど、財政面で申し上げれば、今回、財源計画とともに、新庁舎の計画をお示ししています。浸水の話、浸水の状況と、庁舎の位置関係で申し上げれば、ハザードマップを勘案した庁舎計画になっておりますので、ちょっと被災された方には申し訳ないんですけど庁舎計画としては、ハザードマップの想定通りで変更ありませんという説明になろうかと思います。以上です。

委員長

大沼委員、誰か。誰に答えていただきたいか。

副委員長

施設再編課長と、あとは、防災担当参事ですね。

施設再編課長

はい。うちはですね、すいません浸水、当然ですけど職員として、災害を想定した場所に住んでおりますので、想定がないと言ってしまおうとそれまでなんですけれども、やはり当然私は立場として、災害が起きたときに駆けつけなければいけない立場ですので、あらゆる災害が起きたときに、真っ先に役場に駆けつけなければいけない立場ですので、当然それらの災害対策を日頃から行っておりますので、ちょっとなかなかどういう気持ちになるかってのは、想定してないというのがお答えになります。以上です。

防災担当参事

はい。私も防災をやらせていただいておりますし、消防団もやらせていただいた経過から、まず家族の身が安全であれば、当然、最短で役場に行く、現場の担当であれば現場に行くっていうことが、当然最優先されて、当然かなというようには感じております。

副委員長

今職員として勤務されるというところの話なんですけど、やはりそういうことがね、浸水事態が起きないようにしていくということをして欲しいというふうに思うのが一般的なのかなというふうに思います。今回のこの浸水の関連ですけども、被害の状況を見た中で、人命に関わるようなリスクっていうものを、危険性っていうのが、どうでしょう、あるように感じたか、全くそういうことは心配がないというふうに思われているのか。あともう1点、今の先ほどの陳情者の話でも、この庁舎関連の

予算を消化してしまうと、治水対策に回るお金がなくなってしまうんじゃないかというようなことの心配をされてました。今の財政面っていうんですかね二宮町の財政状況でいうと、例えば国とか県とかの補助がない場合で、二宮町が独自に治水の設備を施せるような余裕があるのかどうか伺いたいと思います。

防災担当参事

はい。今回、緊急安全確保レベル5を出させていただいたところですが、すべてなんですけども、よろしいでしょうか。すみません。今回緊急安全確保を出させてこれ簡単に出したものではなくて、やはり出すときにも、非常に状況を確認しながら、今回の溢水については、今まで過去に経験したことがない、非常に葛川が溢れたっていう状況がありましたので、本当に1階の方は2階、1階の方でもすぐちょっと高台に行っていたきたいという願いも込めて出させていただきましたので、非常にその辺のけがですとか生命にですね非常に大きく影響してくるんじゃないかっていう危惧しながら、出させていただいたところがありますので、被災された方が多くいたことは非常に残念なんですけども、今回大きなけがをされるような方がいなかったっていうところが、非常に幸いだったなというところがあります。以上です。

政策部長

はい。財政のお話ということなので私から答えたいと思います。まず、町が行う治水対策というのを、何を指していらっしゃるのかちょっとわからないんですが、基本的には先ほど松崎議員からもあったように、川の整備は県ということになっております。町としてでき得ることということで考えますと、今二宮小学校下で手をつけています雨水管の整備というのが一つあると思います。もう一つはその下水道事業における接続の勧奨というのが、今できることなのかな。もちろん新庁舎等のインフラ整備に伴うグリーンインフラの導入とかですね、そういったことは全然可能だと思うんですが大きな話としては、下水道への接続勧奨と雨水管の整備ということになると思います。雨水管の方は今二宮小学校下でやっておりまして、今後どういう計画でというのはまだ、これから作ります内水ハザードマップなども勘案してということなんですけど、新庁舎建設と同時に告示した財政見直しには、普通建設事業費ということで、一定の事業費を見込んでおります。雨水管については、国庫のお金がきちんと下水道と同じように入るといふふうにも聞いておりますので、そのあたりは期待しつつ、一方で、町単独で大掛かりな治水施設っていうんですかね、都市部で見られるような治水施設を整備する、そういった余力というのはなかなか無いのかなというふうに考えております。

副委員長

今のお話からいくとですねやはり雨水排水とかの、そういう対策以外のところでいくと、やはり町の方で、ある程度しっかりした計画を持っていかないと、町独自ではそういう治水設備が

つくれないとなると、やっぱり国県に依頼をしていくということになるのかなと。そういうことを今後例えば計画をしていくような考えが、あるのか。考えていただけるのかどうかというところの問題一つ、あと先ほど渡辺委員の質疑の中であったんですけど、たびたびこの緊急輸送路っていうところの話が出てくる先ほど出たんでねこのことも、聞くんですけど、緊急輸送路っていうのは、二宮の中でいくと、県道 71 号線がクローズアップされてくるんですけど、実際の浸水地震とかの被害のときのことで言うと、かなりこの J R、鉄道ですね、鉄道での輸送っていうのがかなり復旧が早くて、その実際のその資材の運搬にも、対応されているっていうような事実がありますけど、そのあたりのところの認識、どのように思っておられるかをお伺いしたいと思います。

政策部長

1 点目、私の方からしっかりとした計画を作っていく予定があるのかというご質問だったと思いますけど。なかなか現時点で予定があるというふうには申し上げられません。一方で、先ほど来ちょっとご説明している広域、県も、葛川の整備、どうしても J R のところは時間がかかるというのわかっておりますから、県の整備計画だけではなくて、流域で考えていくという体制を取ろうということで話が始まっておりますので、その中で、各々できることという整理は今後されていくものではないかなというふうに考えております。

施設再編課長

はい。緊急輸送路という点では、国道 1 号線及び小田原厚木有料道路も同じように緊急輸送道路に指定されております。で、そこからの接続で考えるとやはり県道 71 号線は、緊急輸送路でもあり、道路でもありますし、非常にアクセスがよい作りになっているのが北と南にも、横に走っていて南北で 71 号線走っているってことで、非常にアクセスが良くて、災害時においても非常に有効に機能することかと考えております。で、J R の鉄道の部分ってのは、当然貨車輸送などもありますので、機能するとは存じておりますけれどもやはり今、J R というのも民間企業でありまして、どこまでかというのは具体的には把握していないところでございます。以上です。

野地

洪水対策ということでお伺いします。先ほど、人員を確保して云々という言葉がありました。もう一度振り返ってみて、今回のようなことが起こるもしくは、起こる前ですね今皆さんの動き等、それだけじゃなくって、例えば町でね、事前にこういったものを配っておこうよとか、事前にこういうことを近隣の方には持ってもらったと。例えば、高齢者で言うとね、電話なんかもあるかもしれませんが、そういうような動き検討しているのは、すでに何かされてますか。

防災担当参事

はい。普段の関係からお話をさせていただきますと、台風とか、

大雨が降る予報があるときには、事前にホームページとかを利用させていただいて、例えば土のうはどこにありますよ、ですとか高齢者の方であればご連絡いただければというようなところも含めて、あと排水等が詰まっているようなところがありましたら、早めに町も当然やるんですけども地域でも、そういった排水溝を少しか、流れやすいようにしてくださいとかっていうような事前周知ってのはさせていただいているのですけれども、具体的に事前に何か配ったりとかっていうところまでは今のところはやってないところであります。以上です。

野地

はい。今回もね、土のうの問い合わせがうちにもありましたけども、非常に土のうって重たくてもう無理なんだよね実際はって考えると、最近この間も防災フェアであります、止水板というものをね、例えば町で導入しようとか、個人のお宅に補助金でもいいから、出してでも持ってもらおうとか、それ難しかったら、地域で、集会所、会館にちょっと置いとこうとか、そういう検討もなきにしもあらずだとは思いますが、その辺については、どのようなお考えでいらっしゃいますか。

防災担当参事

はい。あちらの葛川沿いの方も溢水した方が、事前にもう購入されて、お持ちになっている方なんかもいまして、今回の防災フェアもですね、やはり、地震だけじゃなく浸水に特化したところも含めて、やっぱり風水害こういった対応ということで、土のうの積み方ですとか、止水板というものがありますよっていうところですね。周知の方をさせていただきました。今後それを町でどうするかっていうところを、様々ご意見伺いながら、検討をしていきながら、予算の絡みもありますんで、やれるやれないというのはまた別の話になりますけども、そういったものがあるということは、一つの浸水対策になると思いますので、そういったものについては今後研究していきたいなというふうに考えております。

野地

もちろんいろいろ検討していただきたいんですけど、それと並行してね、国の補助金、例えば止水板に対する補助金あるかどうかわかりませんが、その項目メニューをね、見ていくと、おそらくいろいろ引っかかってくるんじゃないかと思うんですけども、それに対してねちょっと担当課としては、その国補助金まあ県でもいいんですけども、どのように考えていくかもしくは、今こういったもので調べてるとかってあれば教えてください。

危機管理班長

はい。ご指摘のありました止水板への補助につきましては、今、県の補助がそれに該当する項目があると、ありそうだといいところが今調べがついておりますので、いわゆるどういう条件下でそれが使えるのか、そういった具体的なものも含めて、今、検討いわゆる調査をしているところでございます。なので可能

性としては県補助が今のところを、1項目ありそうだという回答になります。以上です。

<意見交換>

委員長

はい。これより、委員による意見交換を行いたいと思います。ございませんか。ないようですので、意見交換を省略いたします。

<討論>

委員長

これより討論に入ります。

根岸

私は陳情不採択の立場で討論をさせていただきます。陳情項目の言葉だけで見ると大変、悩みます。というのはその庁舎のことと絡んで陳情されているという点で、庁舎との兼ね合いということ考えたときに、悩ましかったです。ご存じの通りまず地震が起きたときに動けるように、庁舎建設に踏み切りましょうという流れできております。で、やりとりの中で、庁舎にそんなに注力をしてしまっても、大丈夫なのかと、いうお話がありましたけれども、むしろここで止めてしまう方が、庁舎への注力に職員はエネルギーが取られると、私は思っております。なぜならばこの8年間、いろんなやりとりを経てきて、ここでその方向性を見失うということが、かえってね、庁舎への、余計なエネルギーというか、注いでしまうことにもなると思っております。なので、並行して進めていくことが、今やるべきことなのかというふうに私は思っております。で、やりとりなんかで、というかその財政見通しの点についても、町から示されている中で、町民の方とかね説明会を設けている中で、説明をしています、町も。そんな中で、町民の方の心配に或いは「しお風」さんの心配にお答えし切るには、なかなかこうちょっと結果をもってでは、もしかしたらなんかご納得いただけないのかもしれないなみたいなふうにも、思う節もあります。このやりとりで引がかかったのは、そうなのかと納得できるような説明が得られていないというところで、これはやっぱり町民の中でも、それを得てる人と得てない方が、おられるというふうには分かれると思いますので、そこら辺はやはり今後も丁寧にやりとりの中でやっていく話なんだろうなというふうに思いました。で、細かい課題とか含めまして、議会は本当にまだこれからやりとりを継続してね、やっていかなければならないということはもう全員が認識していると思いますし、「しお風」さんの活動にも応援いただきながら、押されながら、私たちはやるべきことをやっていかなければならないというふうには思っております。が、ちょっとどうしても、それなりの時間も人手もかかるのに、庁舎と、要するに3番ですね。集約事業の検証と見直し。これはあるんですけども、陳情者のお話ですとやはりそこはストップをしてやらないと、できないでしょうというふうに私は解釈をさせていただきましたので、ちょっと不採

択の立場で討論をさせていただきました。以上です。

副委員長

はい。私は陳情第 12 号に賛成の立場で討論をさせていただきます。今回の陳情に至る実地の調査聞き取りなど、町内活動を行う方ではありますが、本陳情に絡む活動は、議員が率先して行うべきものだと思います。そして先般起きた浸水状況を詳細に調査した上で、純粹に町を思う心が、よりよい町づくり、よりよい判断を求めて出していただいた陳情です。浸水被害以降、雨が降るたびに、また浸水するのではないかと心配な日々を過ごす方がたくさんいらっしゃいます。庁舎建設に前のめりになることは非常に危険な判断だと思います。議員は何のためにいるのでしょうか。町民の暮らしや命を守るということは、葛川流域でお住まいの方、事業を営まれている方に対して、この陳情内で求められている、治水対策を進めることではないのでしょうか。対策方法や計画策定については、行政に任せることとなりますが、具体的な示しがない現在、早急にやるべきことの要求として、町民の声とともに、議会からも声を発し、今後議論が開始されるであろう、流域治水の広域会議の中でも、強力に推進を求めるべきものと思います。その中でも、命を失うような災害が起きないように、改めて皆さんにも、考え、陳情採択の上、議会からも明確な声を発していただきたいと思います、賛同を求めます。

委員長

それでは、これをもって討論を終結いたします。

＜採決＞

委員長

それでは陳情第 12 号を採決いたします。陳情第 12 号を採決すべきものとするに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手 3 名)

可否同数でありました。よって、委員長は、採択すべきものと決定いたします。以上で陳情第 12 号の審査を終了いたします。暫時休憩いたします。

暫時休憩 14 時 25 分

再開 14 時 35 分

②現在建設が予定されている場所での町役場の新庁舎についての陳情

(令和6年陳情第 13 号)

委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。次に、現在建設が予定されている場所での町役場の新庁舎についての陳情。令和 6 年陳情第 13 号を議題とします。お諮りいたします。本陳情につきまして、議会基本条例第 15 条の規定により、陳情者の意見を聞くことにしたいと思います。ご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

ご異議なしと認めます。本陳情につきましては、提出者の深尾様にご出席いただいております。それでは深尾様、10 分程度にまとめて、趣旨説明をお願いしたいと思います。

<趣旨説明>

深尾氏

深尾と申します。2 年前に脳梗塞を患い、右手と右半身と言葉に問題が残っています。ご容赦ください。陳情の趣旨は、新庁舎の建設は中止をしてもらいたい。撤回をしてもらいたいということです。その理由は、第 1 に、果樹園の廃止。果樹公園の廃止をイメージするからです。これについては、環境問題、それから歴史的の意義の問題があるんですけども、その点は後で、高田さんから説明があると思いますので、ここでは省略します。第 2 に、場所の不適切性、立地の不適切性に問題があると思うので、その点を中心に述べたいと思います。それで、前にいただいたラディアン周辺行政機能等集約基本設計業務というものに、町の新庁舎の基本理念というのがありました。それで、町民の安全と安心を守り、町民が利用しやすいまちづくりの拠点ということですね。その後、1 番から 5 番まで、基本的な考えがありまして、その 1 に、町民の安全、安心な暮らしを支える拠点となる庁舎。2 に町民が親しみ、利用しやすい開かれた庁舎。3 に行政サービスの向上を目指した多機能な庁舎。4 に、高度情報化社会への対応した機能性の高い庁舎。そして、最後に、環境に配慮した経済性に優れた庁舎。こういったことが掲げられています。それは最もな話なのですが、それでは、複数の候補地の中で、現在の立地が、以上のような特徴を目指している庁舎の町に、なぜ選ばれたのかわかりにくいと思っております。複数の候補地があった中で、なぜそこにしたのかという観点から、今の 1 番から 5 番の基本的な考え方を当てはめても、わかりにくいという気がします。それで、強いて挙げるとすれば、複合施設を収容するための広い敷地があったためではないかと思うわけです。要するに広い場所を確保するという。そうすると、立ち返って、なぜ分散じゃなくて、集合したものを作らなければいけないから、そこがわからなくなる。最初に集約したということがあるから、広い場所が必要になったということであって、それが 1 つ言えることです。逆に、現在の立地が安全でないということは、この間の台風 10 号の浸水被害のように明らかであると思います。従って、最も不適切な立地だというふうに思います。このラディアン周辺行政機能等集約基本設計案に対する町民の意見募集の結果の概要についてというものがあります。その新庁舎の浸水に関するこの項目の 4 番のところに、ラディアンの周辺は安全ではないと。浸水の危険があるという町の住民の意見に対して、意見に対する町の考え方はどう言っているかという、新庁舎建設である果樹公園自体は、浸水想定区域ではありませんが、1,000 年に 1 度の確率と言われている最大規模の事案が周辺で発生しても、2 時間程度で解消することが挙げられていますと書いてあるんです。町の意見ですよ。これは信じら

れないですね。要するに、1,000 年に 1 度のあれというのはおかしいでしょう。浸水被害は 25 年から 50 年に 1 度発生していると聞いています。この点は、多くの町民が疑問に思っているところです。タウンミーティングでも、この辺の反対意見は多く聞かれました。そこが浸水被害の問題です。また、地震との関連で言うと、津波が葛川を遡上する危険性を無視することができるのかという疑問があります。関東大震災の時の震源地は、平塚沖だと聞きました。夏のタウンミーティングで、ある子連れのお母さんが、東北大震災の間接被害者だろうとおっしゃっていました。それは二宮のこの地形がよく似ているから心配だとおっしゃっていました。それを必死で訴えておられました。私の陳情は以上です。

＜陳情者に対する質疑＞

松崎

読ませていただきました。即刻中止ということで、私も賛同をさせていただきたいと思います。その上で、私も即刻中止と言いながら、自身の活動報告等々で、どうするのかと。今のままでいいのかということで、私なりにビジョンをもって、お示しさせていただいているんですけども。今日お見えになった深尾さんは、もし差し支えなければ、今町が示しているのは反対だと。その上で、庁舎はどうすべきなのかと、お考えがあったら教えていただきたいのです。別にそれはなくても構いませんけれど。あったら、お願いします。

深尾氏

私は本来、震度の耐震性ですね。基準を調べてみたところ、高、中、低で、その真ん中で、必ずしも高いものではないと。だから、現庁舎がね。だから、まず、補修で直すべきではないか。また、仮にそうではないとしても、他に小学校の跡地とかいろいろあるだろうというのは、あれです。だから、今度、今の予定地と、もう 1 つ法務局のやつも反対です。だから、今のラディアンのは反対で、他のところでやるならば、やればいいと思っています。

渡辺

1 つ樹木の伐採や環境変更ということを書いておりますか。

深尾氏

はい。

渡辺

それからあと、次も環境問題ということで、この環境問題は非常に幅が広いですね。具体的にどういう環境について懸念をされているのか、その辺をお聞かせください。

深尾氏

1 つは、自然環境ですね。もう 1 つは、文化環境と言えるかどうか。例えば、徳富蘇峰堂も含まれます。そういう漠然としたものです。

渡辺

そうしますと、特に今議論をされているのは庁舎に温暖化ガスの排出を減らすとか、そういう論議もされているので。そこまでは特に環境に言及はされていないと。もちろん、緑とか、そういう植生であったり、あと生物的部分と理解しておいてよろしいでしょうか。

深尾氏

はい。

根岸

まず最初に、次の陳情者の方と近い内容で、しかもお知り合いで、どうして別々に陳情を出されたのかと思ったのです。今お答えの中に、法務局の方でも反対だとおっしゃったので、そこが理由だというふうに理解すればよろしいでしょうかというのが 1 点です。なぜ別々に陳情を出されたのかということをお伺いします。あと、場所がなぜ選ばれたかということをお伺いします。先ほども強くおっしゃっておられました。この陳情自体は別に今回が悪いとは言っていないよ。例えば、もっと前に陳情ができるタイミングもあったのではなからうかと思うのです。なので、今回こうやって陳情をお出しになられてきた深尾さんのお知りになって陳情を出してきた経緯とか、その辺りもお聞かせいただければと思います。

深尾氏

私はここに引っ越して来て、たったの 2 年です。リハビリをやっており、その関係で高田さんを知って、家が近くだったものですから、興味があって、やったということです。高田さんとやるのは、途中までで、県の方の陳情には一緒にやりましたけれども、今回は、その後、趣旨が合わなくなったので、なんて言うのか、その辺はいいでしょう。

副委員長

この陳情の中で、今回、深尾さんの方では、特に強く言わないんだというような先ほどのお話でしたけれども。この歴史ですよ。これ歴史がなくなるとか、そういうことが、一体何なのかということになってくるわけですけど。私の中では、郷土愛とか、町に対する誇りみたいなものが、ここへ直結してくるのかと思うんですね。そうすると、やはり大人の話だけではなくて、子どもとか、あの周辺でも遊んでいる子どもたちがたくさんいるじゃないですか。そういうところの部分とかも含めて、深尾さんの中で、その辺りをどのように感じていただけるか。お伺いできればと思います。

深尾氏

僕の中では、何て言うのか。うまく言えない。親戚や、何かに自慢するのによいという程度です。だから、何ていうか徳富蘇峰堂が大変だとわかっているのですけれども、そういうのを、なぜ廃止してしまうかと思って出しました。

＜執行者への参考質疑＞

野地

今陳情者の方が、なぜここにということがありました。28 年の調査報告書になるかもしれませんが、議会も何回も予算を止めてきました。その経緯を少し今一度お伺いしたい。なぜここかというのを簡単にお願いします。それと、今の果樹公園は、この間の回答によると年間 450 万かかっています。7,000 万以上も次足して整備をしています。今回それを止めた場合には、何か経費がかかるものはありますか。原木含めて経費がかかることはありますか。3 目です。先ほどの陳情にもありました。二宮に移管すると、県はいろいろ条件を付けて、何とか公園にきなさいと。だが、今回、なぜか県は売することに同意したのか。県はどのように思って売りに出したのか。県は何か条件を付

けたのか。昔の約束事はどうなったか。県の主張はどうであったのかも聞いておきたいです。

施設再編課長

なぜここにいうところであると、まずは先ほど陳情者の方からのお話もありましたけど、耐震性がないことによって、新庁舎の問題があるということで、ここでの建て替え、耐震補強で後は東大果樹園の跡地に移設、ラディアンに移転の4つの案で検討したのが、議員のおっしゃった平成29年度の整備手法調査で整理をしました。その中では、まず1つは、耐震補強をしても、建てるのと同じぐらいお金がかかる。現地建て替えでは、仮設で一時的に移転しなければならないって、より高額になってしまう。東京大学果樹園跡地では調整区域ということもあり、1番その中でよいのが、ラディアン周辺は誰もが周知されているのがわかっている場所で、駅からも歩いて行ける。駐車場も十分確保できるということで、今の庁舎においても狭いとか駐車場がないとかさまざまな課題がありますけれども、ラディアン周辺に作ることが、皆さんの日頃からのメリットになるということで、整理したのが平成29年度の整備手法調査でございます。先ほどの浸水の話は割愛させていただきますけれども、そういったこともふまえて、令和平成28年をきっかけに、約10年近く議論していますけれども、そういったことをふまえてラディアン周辺に集約することが、日頃、マイナスな、ネガティブな要因もありますけれども、町民の方々の全体のメリットになるということで町は計画を進めてきたところでございます。

2点目の果樹公園に係る経費でございます。年によって450万だったり、700万だったりすることがあり、果樹公園自体は維持管理のために経費がそれだけかかっていると。公園なので、かかっている経費をどう見るかがあるんですけども、お金を生み出す施設ではないということなんです。あとは、果樹を管理するために専門の知識のある方、これまで農業技術センターのOBの方やなんかにも来ていただいていたんですけども、そういったところの人材も、もうかなり高齢化であったり、新しい人が見つかるのは難しい。あとは園芸試験場時代から、果樹が古くなっておりますので、老木化も進んでいる等々の経緯もあって、やはり町としても、今後に町が果樹園を使って栽培維持するという、公園かどうかは別ですよ。果樹園を維持することになかなか意味合いを見いだせないのではないかなという状況がでございます。

3点目、県がどのように同意しているのかですが、県は最初の経緯は細かく残っていないので不明なんですけれども、少なくとも、平成17年から果樹公園の用地を借りておりますけれども、当時から町に買ってほしいという意思表示はしています。明確に毎年年度契約で年度更新なんですけれども、毎年、町は取得してほしいということをおっしゃっていました。今回の令和2年頃の先ほどのワークショップから果樹公園の取得を検討しているという話は内々に打診はしておりましたけれども、やはり公共用地として、公共施設の庁舎の用地として、県から取得するのは望ましいということをお願いしておりますので、それによって、県の方でも協力したいというか、様々配慮したいということはいいただいております。あともう1つ条件としては隣に、テニ

スコートの南側に原木園があり、ナシの幸水の原木があるんですけど、そこは県の天然記念物に指定されておりますので、約 20 本ぐらいか、まだ残っているんですけど、そこはきちんと町も維持管理、県が維持管理していくのに協力して欲しいと。具体的には、フェンスであったり、進入路だったり、そういったものは、町も協力してくれれば、県も果樹公園の取得に積極的に協力していくということは、お声としていただいております。

政策部長

果樹公園の管理の体制をもう少しご説明させていただきます。わかりやすく申し上げますと、果樹園と公園で構成されているとお考えいただけますと思います。芝生のあたり芝生だったり、管理棟であったり、この公園部分は引き続き経費もかかって、同じように管理をしていきます。実は果樹園の方は、また違う方々に管理をお願いしているんです。ナシであったり、ブドウであったり、カキであったり、いわゆる果樹の管理は公園の管理とは別の人材に担っていただいているというのが、今でもそうなんですけれど、その部分が新庁舎を建てることによって、果樹の部分の切りますので、不要になっていくというのが新庁舎建設後の管理体制ということになります。

野地

そもそも論です。平成 29 年 12 月に出した調査報告書の中で 4 つを言われました。そこで先ほど陳情者の方が学校とかと言いました。例えば、小児病院跡地、学校も 5 つあります。学校とかも使えるじゃないかというふうに考えられる。なぜ検討しなかったんですかという質問になります。それと 2 つ目が、今部長の質問で、改めて確認します。果樹公園と言っていますが、果樹の部分はなくて、庁舎を建てる予定ですが、俗に公園と言われる東側というのか上側というのは残ると。公園として維持は今後も続けますよと、そういう理解でよろしいですかという 2 点です。

施設再編課長

小児病院は確かに当時子どもの館構想がまだ凍結という状況で生きているという状況で、今もそうなんですけど生きている状況でございます。ただ、今マーケットサウンディングっていうんですかね。市場調査をしている状況ですので、ちょっとそれを引き合いに出すのもどうかと思うんですけども、やはり立地で考えると、駐車場等も含めると、非常に高台の崖地に面しているというレッドゾーンに面していることもふまえると、やはり適地ではないと考えております。学校に関しても様々議論がありましたけれども、まず大前提として、空き校舎はないということを常々申し上げております。これは当初から申し上げているんですけども、現在学校は空いていない。その学校をあけるためにわざわざ子どもを動かす、学区を編成する、庁舎のために子どもたちに影響を及ぼすということは考えていないということで、学校はないという前提でございます。2 点目の果樹公園の東側、芝生や管理棟の部分というのは、これからも今までと同様に維持管理していくということで、しっかり残していくという考え方でございます。

渡辺

陳情者から、軟弱地盤であることから予想、予定されている杭打ち

工事の難航も予想されますというふうに指摘されているんですけど、現実にはどういう想定をされているのでしょうか。

施設再編課長

特に軟弱地盤という表現がなかなか難しいんですけども、これまでの一般質問等での議論でもあったかと思うんですが、少なくとも、液状化はしないという件も含めて調査結果が出て、公表されているものなんですけれども。もう1点、当然建設にあたり、今回基本設計をするにあたって、地盤調査ボーリング調査を何か所か実施しております。いずれもきちんと13mぐらい下に支持層がきちんとあって適切な杭の工事をすればよいということで、後、杭打ちというのが、固い杭をゴンゴン打つようなことをイメージされているかもしれないんですけども、現在その周りの環境に振動等影響を及ぼす可能性がありますので、そのような柱状改良ではなくて、周辺環境に音や振動等を生じないような改良コンクリートを流し込むような改良方法を主体で、あと当然工事の手法としても、周辺への影響がないということ、この基本設計の中で、検討した中で進めているところでございます。

渡辺

13mというのは、一般的な範囲なのか。それとも特殊な事例と捉えたらいいのか。その辺の感触も合わせてお願いします。

施設再編推進班長

こちらの地盤というものは、いろいろな意見があるかと思うんですよ。やはり、一般の家とかですと、その杭打ちとかやられるイメージないかと思われるんですよ。基礎をやった時に、そのちょっと悪いところを一部セメントを入れたりとかして、地盤改良的なところではあるんですけども。ただ、基本的に軟弱地盤というところで大きなもの建てるって言われた時に、もうこの現場では、建てるのが厳しいですよということでは、専門家の意見では一切ないんですよ。このぐらいでしたらこのぐらいですねという本当に、そういった公共施設としての捉え方では問題ないんですよ。実際、今回この13mとか15mとか確認をして、そういった支持層の方は確認できているんですけども。例えば言いますと、消防署は弱いというイメージで、あれは地上から25mで支持層が見つかっています。でも実際、そのところで建てるか建てないか、その話もあるんですけども、基本的に私たち工事の知識ある人間としては、このぐらいの規模でしたら、通常やはりありますねということなので、実際横浜の方とかになりますと、もっと深い基礎杭を打ったりすることもありますので、私が聞いた中では70mというのもありましたね。ただそれは、建物の重さ、いわゆる大きさに応じた杭打ち工事を判定していくということになります。

根岸

私も先ほど陳情者がおっしゃられた心配に答えていただきたいと思います。まず、葛川遡上を無視できるのか。地形としても、東北大震災思わせるような二宮町の地形があると訴えておられた方もいたということに対しては、どうお答えになるのか。場所は、この元役場でもいいのではないか。先ほど場所の説明はいただいたんですけども

ども、ここの役場でもいいのではないかと。補修で済ませるべきではないのかというお話がございました。ここの場所を選定してはいけないのか。原点に戻ってしまいますけれども、もう一度そこをお願いします。あのラディアンのところの場所が不適切なのは、この間の大雨が証明したと。1,000 年に 1 度と答えられたからと言って、浸水する側の方からみれば、とんでもない話であるが、その情報を公開しているという役場の立場があると思いますけれども、何かそれで済まされる話ではないでしょうと言いたい気持ちがあると思います。だから、私は治水なんですよと思うんですけれども。政策部長としても、きちんとそこは治水の大事さは思っているという話になるのか。別に、あそこが浸水エリアだから仕様がなっていないと言っているだけに過ぎないというのか。政策部長なので、そこら辺のことを何がしか発言があってもいいと思いますので、ぜひお答えください。

政策部長

まず、葛川を津波が遡上するというお話です。こちらのお話は確か私もいる場所で、そういった懸念を示されたということがありましたので、すぐに調べています。遡上することはないということを申し上げるだけの科学的な根拠はありません。ただし、関東大震災の時に、葛川を津波が遡上したということをおっしゃっている方が、その時にいらっしゃったんですけれども、それは事実としてはない。ないことを証明しろと言われてもこれまた難しいんですが、歴史等を調べたところ、そういった歴史はないということは確認できています。それが津波の遡上との関係です。あと、この庁舎の耐震の話、先ほど、お金が同じぐらいかかりますよということが担当課長からお話ありましたが、その他にも、技術的にはできなくはないんですね。お金をかければなんだってできるという世界なので。ただ、三角形な不整形な庁舎に、いわゆる耐震ブレース、二宮小学校を見ていただくと、バツテンのいわゆるブレースと言われている補強壁が入っていますが、この三角形の庁舎に補強壁を入れると、執務スペースに補強壁を入れざるをえないということで、非常に職員のことを言ってもあれだが、働きづらい。町民の方も利用しづらい。ましてやスペース、今でもまだ、全課が入りきれていないんですが、余計に入りきれなくなるということはわかっております。そういったこともふまえて、金額のことももちろんあるんですが、選択しなかったと。あともう 1 つ、やはりここの庁舎の不便さということで、坂の上にあって、バスも入って来られないし、どうにかならないのかというご意見があることも申し添えておきます。もう 1 つ、治水の関係で治水の前に先ほど陳情者の方のお話を伺っていて、町の回答と違ったのかと思ったので、その部分なのですが、我々新庁舎の予定地としている果樹公園の部分は、千年に一度の大雨でも浸水しませんということですね。一方で、いわゆる法務局のところ、そこは千年に一度の大雨があると、浸水をする可能性があります。最大で 97 センチで 2 時間程度、浸水する可能性があるということがわかっておりますので、法務局の横ではなくて、果樹公園の方に建設予定地を移したということでございます。治水をしなくても、新庁舎がハザードエリア外にあるから、それでいいのかということですが、決してそのようなことを申しているつもりは全くなくて、ただその治水自

体が、町独自で、町だけでやることができないということもご理解をいただいた上で、広域でしっかりと、そこは取り組んでいきたい。町でできることとしては、下水道の接続箇所、あと雨水の整備というのはこれからやっていくことになっていきますので、そのあたりをしっかりとやっていきながら、ただ根本は葛川の整備ですので、しっかりと県に働きかけると同時に、その整備ができるまでの間、どういったことができるだろうかということの話し合いが、これから始まっていくと認識をしているところです。

副委員長

果樹公園のことが書いてあるので1点だけ伺いたいと思います。以前に私も目にしているので、改めて確認なんですけど、小学生・中学生に向けて、町の魅力アンケートみたいなものを以前取っていると思います。その中で今資料ないかもしれないが、主だった回答というのは、やはり緑が多い、自然が多いということが、トップ3みたいな形になったのかというふうに思っているんですけども。そのあたり、多分見かけたりとかしたことがあると思うので、もし内容を覚えていれば教えていただきたいと思います。

政策部長

町民アンケート、小・中学生のアンケート結果というのは資料も手元になくて、覚えていないというのが実情なんですけど、当然緑が多いとか、星が綺麗だというのは、町民、子どもたちだけではなく、町民の声として認識はしております。

議長

1つ質問させていただきます。先ほど耐震工事のお話でしたが、二宮中学校の東側の築60年の校舎は、バッテンが一切付いていません。どのような耐震工事をされているのか。それと工事の工法が最近すごく出ていて、先にNHKのドキュメンタリーでやってたのですが、コンクリートの老化・劣化防止、もう今にも崩れそうなコンクリートでも、中に液を流し込むことによって、老化・劣化は防止できる。要するに、そこに住んでいるマンションの方たちが、外へ出なくても住んだまま影響なしに、コンクリートは直せますと。それと同時に、耐震工事も、中に液体を流し込むだけで、耐震工事は可能であり、今までの耐震工事の半額以下の金額でできると、そのような報道がNHKで30分にわたってされていました。その辺のところは、最近のことですがご存じでしょうか。

施設再編課長

手元に資料がなくすみません。二宮中学校の耐震補強の状況が手元にないんですが。耐震補強の工事は済んでいると。もともと必要性がなかったのかという耐震診断の結果の数値の資料も手元にないのでわからない。少なくとも基準に則った耐震補強が必要なのか、或いは必要なくて基準を満たしているか、あるいは補強して、耐震性を満たしているという、今の基準は町内の小中学校の全ての耐震は済んでいます。必要な耐震性を備えており、体育館もふまえて持っているという認識でございます。以前一般質問でもご質問いただきましたけれども、令和2年度に健全性の調査をやってございます。耐震補強工事をするおそらく平成10年度代にも、耐震補強

する前に調査を行っておりますし、その後、令和 2 年度においても、同じ場所のコア抜きではない材料取りではないんですけれども、劣化調査は行っておりますので、その時点では必要な強度を満たしているという強度の試験結果が出ております。圧縮強度がきちんとあるということですね。13.5 だったと思うんですけれども、ニュートンパー平方ミリがあったと思うんですけど、必要な強度を残っているということがわかっています。もう 1 つ液を流し込むという補強については班長の方から説明をします。

委員長

今、学校の関係の耐震云々というのは議論の中で多少ずれているので、その部分は省略させてもらってよろしいですか。

(「省略しなくてもよい」との声あり)

そうしましたら、簡潔にお願いいたします。

施設再編推進班長

最後の工事の技術的な内容なのですが、私の知識不足で、そのコンクリートの補修のやり方というのは、議長のおっしゃった内容を把握していないんですが、橋なんかとかでやりますと、いわゆるそういう柱とかに炭素繊維シートを巻いて、それで補強するやり方とかもございますので、議長が言われた内容の施工方法は今後いろいろと研究させていただきたいと思います。

議長

中学校の耐震工事はしてあります。今班長がおっしゃった巻き付ける形での外にクロスするような耐震はしていませんが、柱を補強する、そういう形の耐震工事はされています。ですので、課長がおっしゃった耐震はしていないが、耐震精度は十分であるとはちょっと異なっていると思いますので、そこだけ付け加えてさせてください。それでは先ほど申しました工法等も調査していただきたく思います。

委員長

よろしいですか。傍聴議員にお知らせします。本日、大変時間がおしておりますので、引き続き、傍聴委員の発言は省略とさせていただきますので、ご了承いただきたいと思います。

(傍聴議員の質疑:なし)

＜意見交換＞

なし

＜討論＞

委員長

これより討論に入ります。討論は 2 名です。

渡辺

私は不採択の立場で討論をさせていただきます。陳情者の思いはいろいろ感じるところです。ただ 1 つ、この新庁舎の建設につきましては、2019 年 12 月か、整備手法調査の時点に立ち返って進める必要があるのではないかと思います。ただ 1 つ、やはり、解決できない問題、技術的にも難しいというのは、果樹公園が陳情者の指摘のと

おり、いろいろな歴史を持っているということですよね。この地域は、大体東の方から言うと、サカタのタネさんとか、三井東圧化学、平塚には果樹試験場もあって、全農もありました。それから大磯の日本曹達もありました。農業関係の企業も多く試験場を構えていた、そういうところなんですよ。多くがやはり、なくなったり、縮小されたりしている現状がございます。そここのところの思いは私も寂しいなというところがあります。ただ、どうしても防災と言いますと、災害対応に目が行きがちなんですが、石川や神戸でもそうでしたけども、復旧復興にどれだけ、労力、力を集中できるかというところが、やはり大切だと思うのです。どうしても、その時の対応に目が行きがちなんですけれども。私は、長い目で見て、本当に時間とエネルギーがかかる、そこを中心となっていく施設に力を入れるべきじゃないか。基本はやはり、この陳情者がおっしゃるように建て替えです。建て替えではなくて、長寿命化、これがやはり私も最初はそう思っていたんです。それが一番大切で、お金もかからなければ、時間もかからない。そういうところからスタートしていますけれども、やはりそれでは無理がいろいろあるということで、今回は即刻中止という趣旨はなかなかお答えしかねるかと思って、反対をさせていただきます。

副委員長

私は陳情第 13 号に賛成の立場で討論をいたします。地震ということで、いろいろと議論が出てくるところではあるんですけれども、南海トラフの地震の際に、二宮町が被る基本的な予測としては震度 6 弱ということになっており、震度 6 弱をまず頭に据えておかなければいけないということだと思っております。その中でやはりこの陳情理由の 2 にありますように二宮町の果樹公園というのはお年寄りから、赤ちゃんまで気軽に立ち寄れる、心からリラックスのできる貴重な大型の都市公園だと思います。世界の名だたる都市には必ずと言っていいほどランドマークとなるような公園が存在しております。花の丘公園や吾妻山があるというようなご意見もありますけれども、その求める公園の種類もそうですが、山道の登坂などあり、気軽に立ち寄れる場所ではないという立地になります。果樹公園の消失というのは、園芸試験場跡地としての歴史的な価値も、ともに失われるということになると思います。この歴史を失うということが、やはりこの愛町精神、誇りというものが、歴史に直結するのが多いのではないかと思います。ここで、郷土愛をなくしてしまうということについて、この陳情の中でも心配に思われているところがあるのかと思ったところです。今までの町の課題としても、子どもたちが成長すると、町に留まらないというようなことが 1 つの問題にも掲げられております。その中で先ほども事務局の答弁のとおり、子どもたちも大人も含めて、町の魅力というのは自然が近くに感じられる緑豊かな町の姿、これが郷土愛、町の誇りに繋がるあるものだと思っております。ですからできるだけ、やはり既存のその自然緑というものは保全していくべきだと思います。この陳情に賛同したから、庁舎を建てるなというようなものではないと思います。このような意見を町が受けとめて、その中でどういうふうに進めていくかを検討していくことが非常に大事だと私は思っています。現在でもグリーンインフラとか、この治水計画というものが、この庁舎

の計画の中にはちょっと予算的にないというようなことを耳にしておりますけれども、今よりも少なからず、緑や歴史に目や心を寄せていただいて、計画を修正するなり、予算を検討するなり、より多くの課題を消化しつつ、この庁舎計画というものを進めていくべきではないかと思っているところです。この陳情を機会にして、改めて町に対して、議会から要望・要求も含めて進めていっていただいて、町民からこのような心配事、もしくは不安に思われることが、少しでも改善するような内容に改善していくべきだと思いますので、ぜひ皆さまの賛同をお願いしたいと思います。

<採決>

委員長

これをもって討論を終結いたします。それでは、陳情第 13 号を採決いたします。陳情第 13 号を採択すべきものとすることに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手少数)

賛成、挙手少数であります。よって、陳情第 13 号は不採択すべきものと決しました。次に、この陳情の不採択に対する審査意見の作成については、いかがいたしましょうか。

(「正副委員長に一任」との声あり)

正副委員長に一任との声がありましたので、審査意見の作成については、正副委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

ご異議なしと認めます。よってそのように決しました。以上で陳情第 13 号の審査を終了いたします。

暫時休憩 15 時 31 分

再開 15 時 45 分

③「反対の多い果樹園での新庁舎計画を取りやめ法務局北側の町有地と民地買収地に新庁舎を造ろう」の陳情（令和 6 年陳情第 14 号）

委員長

はい、休憩前に引き続き会議を再開いたします。次に、「反対の多い果樹公園での新庁舎計画を取りやめ法務局北側の町有地と民地買収地に新庁舎を造ろう」の陳情、令和 6 年陳情第 14 号を議題とします。お諮りします。本陳情につきまして、議会基本条例第 15 条の規定により、陳情者の意見を聞くこととしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

委員長

ご異議なしと認めます。本陳情につきましては、高田様より提出されており、本日は、高田様でよろしいですね。高田様にご出席いただいております。10分程度に、おまとめいただき、趣旨説明をお願いいたします。

<趣旨説明>

高田氏

本日、陳述の機会を与えていただきまして、本当にありがとうございます。私としては二宮に来て、約60年。陳情したのは6月が初めてのことで、それは今度、2度目をやった理由の一つはですね、この前言い足りなかったことが一つありまして、実はちょうど10分ですか、15分かの間の間中ほどにですね、どうしてもこれは言いたいと思ったことはですね。

委員長

10分程度でおまとめいただきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。10分程度でまとめていただきたいと思います、お願いいたします。

高田氏

委員長から古い話はやめてくださいって、これが、これ原点になっとるんですよ、私としてはね。これを、議員さん、町民の代表のね皆さんそれから町民の方にも、私がこれを今まで言わなかったことが、大きな誤りであったような気がするんです。先生、そういうことでこの陳情の項目の前半にするものですが、後半とはちょっとかけ離れますけどそれをまた後程に話をすることにしましてですね、皆さんが、町の人が、果樹公園は町が造ったと。またその前はね。果樹公園は町有地だと。もう五、六年前までは100%そう思ってたんですよ。そしてまた、平成31年の2月の広報、我々は何でも広報しか頼りがないわけですよ。その広報で、花の丘公園、まだ名前はそうはなかったですけど、あの区域は公園法で云々で駄目。果樹公園は町有地でないから駄目と書いてあるんですよ。それがいつどうして果樹公園行ったんでしょうかね。そういうことでね、その原点は、もっと言いますと、果樹公園は売り物買い物じゃないんですよ、公園は。それを町が買いに行った。で県が、買い、欲しい盛りますから、鴨葱とばかりね、売って値段まで決めてきた。値段はご承知の通り、全くめちゃくちゃですよ。単価そのものは、基準価格つい7月に行った基準価格からの、4、5分の1、そういうものはまた下がってきた。下げることによって議員さんが喜ぶ。そういった予算は通過する。こういうパターンを誰がねらっているんでしょうかね。議員さんしっかりしていただきたいですよ。また、先ほどのように、大事な話を喋ろうとしたら、やめてください。これは私時間の都合でそうだったんだろうという方に解釈しとったんですけども、そのあとにもっと懲罰的な発言もあつたりしましてですね、これも私は我慢しております。むしろ我慢すべきじゃない言葉であろうけれども我慢しました。そういうことで私は今からしゃべることがつい、町

会議員の皆さんにお願いだけでも、そういうことになっていくんじゃないだろうか。また皆さんの各々のグループ、また、党本部とか、そういうところとの関係でですね、本人はイエスと思っても、本部がノーだったら、それに従うというのはこれは当然でしょうけれども、そうじゃなくてね。町民の代表である皆さんがね、そういう本部なりそこへどんどん行ってですね、で、町民の声をどんどん上げるんですよ。それで本部が、それは駄目だとか、こういうことやっていったらいいんですよ。何にもそういうものを上げないでって答えだけ聞けばね。向こうは勉強不足の人間がね、答えるのはとんでもない答えが出てきてるんです。そういうことでも、私は議員教育するつもりはありませんけども、議員の皆さん少しね、私は、国会議員がね、何かあると、あんなのに月給を払ってるのは馬鹿らしいというんですが、町会議員にそういうことを言われないようにですね、しっかりお願いしたいと思います。またそりゃ、またこの果樹公園に限らずのことでございますけども、是非とも町会議員は、その本部の、盲目的な指示がね、そのまま守らんといかんとか、そういうことないように、どんどん町民の声を、そういうグループの団体の上、上げるんですよ。そして答えが来たらそれは守るべきなんですよ。

また、そういうこと等からですね、私はその時間の限りで言いますと、この果樹公園は売り物で買い物でないということはですね、この平成何年だった、ここでちょっと書いてあるのが見えなくてなんですがね。副知事とね、西山町長が協議したやつは、何回も打ち合わせやったんですよ。その中の結論的に、まず、値段を決めて、単価も決めて、一応、当時、一応1ヘクタール、13億8,000万円です。そういう今度の果樹公園も1ヘクタールです。13億8,000万ですよ。そういうことを決めてですね、それを決めるときの段階で、果樹公園ということについてですよ。これを皆さん、しっかり聞いていただきたいんですが、私は売り物、買い物でないというのはそこなんですけれども、副知事がですね、90年の間、二宮の皆さんに閉鎖的な試験研究機関を置いて、大変失礼しました。町長はじめ議長、井上議長らがね、驚いたそうですよ。今まで図々しいこと言ってたことがね、担当らが図々しいこと言って安くしろ、もっと安くしろとか言っていたことは、叱られると思って行ったのに副知事から丁重に謝罪された。そしてそのあとおっしゃったことがですね、ということは、13億8,000万という今のラディアンのところですけども、それと同じ面積ですから、それ買う力も町もないし、県もそういうものは売るものないし、それから、県としてはね、閉鎖的なものを長く90年も置いたんで、今度は町民に開放することを原則とすると言ってるんですよ。そういうことでやってさらにその後に、12月22日ですか、知事と町長、それからじゅうこうぼう合わせてですね、皆さんもう時期が来たから無効だとして、精神論は生きているんですが、そこでまた、はっきり果樹公園として、公園機能として残しましょうと。緑の保全、樹木の保全、それでさらに、

避難場所にもしましようと。そういうことで果樹公園を決めて、これが、皆さんなくなり、もうなくなった話と思ってるんですけど、そういう約束の上で造ってですね。町にはこの土地をね、買う力がないとは言わないけども、貸すから。それで、果樹公園も、皆さん町が造ったと思うとそうじゃない。その時、もう果樹公園のその部分を、これを土地代は無償にするから、お前らしっかり公園として、町民に開放するんだぞと、そうなっとるんですよ。それを知らなくて、町が造ったんだから、勝手に何に変えてもいいちゅうのは皆さんですよ。とんでもない話ですよ。それを私はこの前言いたかったんです。その時はそれほどじゃなかったけども、それからこの3ヶ月間いろいろ聞くと、やはり原点はそこだったなと思ってるんですよ。皆さんどうですか。果樹公園は売り買いの品物じゃないんです。県もそうだけど、ただ県は言ってるのは何かというと、いわみといいますか、町が防災拠点にすると言っているんだから、売りましょうということですね。たびたび私も言ってるんですが、県条例78号ではですね、無償になるんですよ。よりよい公園にしてね、県もねえ、そういうことで、買ってくれと言っているという、皆さん何か幹部らも言うんですが、県はそういうこと言っていないですよ。取得してくれと言ってるだけなんです。それからタダでも取ってくれという意味も含まれてるんです。ただ町が勝手に買ってくれと考えて言っていると、県がって、これまた議会がどういうことか知らんけども、町に来て、まだ少ない羽根議員がね、政策部長にそういう答弁をうまく引き出した。羽根さんも、果樹公園での庁舎についてなかなか勉強しておいでだなと私は思ってるんですけども、すればするほど、そういう原点を知っていただきたい。また、町長に、早くこういうものは片付けましようと言ったら、町長はにっこりしておりましたけども、それをただそのまま、早くやろうという意味じゃないんですよ私は。パーキンソンの法則じゃないですがね、時は膨張するという言葉があるんです。物は何でも、時間かければつつい良い方、良い方といって予算もどんどんどんどん増えていく。早く止めないと駄目だと。これは確かに、去年言ったことに対して今年、こここうしよう、それはいいことだと増える。またこうする。一つとりましても、今の基本設計の庁舎なんて、ダミー工事だらけだと私は見ているんですよ。私も技術屋でそういう建設関係に関係ありましたが、例えば。

委員長

すいません、もうそろそろ、おまとめいただいて、お願いしたいと思います。

高田氏

そういうことで、本論の書いてあるね、果樹公園を取りやめようっちゅうことはそういうことです。そして、なぜなら、ほうもくが来たということはですね、私はこれは前々からのあれなんです。標高から言え何から言って、それから、新しく県有地、庁舎が来てみなさいよ、今の駐車場じゃとても足りない。そういうときこそ果樹公園だ果樹公園だってなると思うんですが、

そういう意味でも、今ここで有効に町有地、また買収がかなり買収あっても、そういうことを、実はこの表題そのものをですね、私は10月の中終わり頃ですか、町に私の提案で出したんです。ね。それでは、返事が来ないから、そうかといって先ほど言ったどうしても言いたいことがあるから、13日ぎりぎりに、こういうテーマで陳情書を出しました。それから、1週間ぐらいいしてから答えが来ました。町は、平成4年の何とかで、果樹公園に決定しておりますというんですが、誰がそんなこと知ってるんですか。広報頼りの我々はわからないんです。ただ私は良心的だなんて思ったのはね、3月、去年の3月の議会だよりにですね、ある議員が、大沼さんじゃなかったから、誰かだったんですがね、いろいろなこの問題、そして果樹公園のことをもっと公表しろよと、公表しましょうと、そういうことを言って、事務方が急いで5月の広報に、果樹公園に決定しましたと出たんです。5年前には果樹公園は駄目です。その間何にも町民に教えずして、果樹公園に決定しちゃった。あれって思ったら、わずかその5ヶ月後の10月号に、設計業者決定しましたですよ。そしてまた、去年の7月のパブコメでは、設計業者と施工業者が同じですとか、これは我々にとっては禁じ手なんですけども、いろいろ理由があるんでしょう。ただ早めるだけならばなんですけども、そういうことがあります。あまりにグズグズしていると、こういうのを私ら工事やって大きい工事ほどですね、利権屋が働いてきますから、早く決着してください。ただ、皆さんの中で早く造りたいと言っておられる、人があります。

委員長

高田さん、すみません。お時間の方もありますので。

高田氏

それは、防災関係だから急がないかんちゅうですよ。が、皆さん、現在のところでもやれるものは相当あるんです。それは関係なくて庁舎がなければできないと防災機能は、拠点にならないんですか。それはいずれそういう時期なんだけども、ね。今なら急に自衛隊が来ていただいたらどこにどうしようとか、ね。今じゃ、果樹公園なり、避難者が来るとか、そういうものでは考えるけど。尻切れトンボになりましたけれども、一つ議員批判をしたようなことも言いますけれども、申し訳ございませんけれども、私は必死になって、果樹公園を売り買いの品物ではない。買いに行く方は馬鹿だった。私ここにも持ってるんですよ。今から10、20年近く前、坂本町長が20億で買った。

委員長

お時間ございますので、そろそろ。

高田氏

けれども、最後の電話ではね、この前も言いましたよ。高田さん、値頃で合意です。

委員長

高田さん、このまま話していただくとちょっと陳情の話が進め

られなくなっちゃうんです。

高田氏 ないですよ。皆さん、そういうことにならないようにひとつ。

委員長 ご理解いただけますか。

高田 申し訳ございませんでした。そういうことで、よろしくお願いしときます。

委員長 はい。お気持ちはよくわかります。お話したいところもありますけれども、お時間のルールの中で進めさせていただきますので、ご了承よろしく願いいたします。

<陳情者に対する質疑>

委員長 それでは、委員の方で陳情者に質問のある方、どうぞ。はい。松崎委員。

松崎 はい。どうもありがとうございました。ありがとうございました。私もね、この役場新庁舎をめぐってはですね、自分の意見をね、活動報告に書いて、持論を展開させていただいてるんですけども、そうした中でですね、果樹公園をつぶさない、それは全く全く私も同感です。考えは同じです。ですからこれからもね、一緒に頑張りましょう。それはもうお約束します。ただですね、高田さんはですね、考えとしてはですね、法務局の横に造ろうというのがちょっとついてるんですよ。ちょっとそこだけはですね、ちょっと私の考えと相容れないものがあるんで、申し訳ない、これちょっと賛成はできませんけれども、前半の部分については、全く考え同じなんで、これからも一緒に頑張っていきましょう。はい。以上でございます。それで、そういうふうに思うんですけども、やっぱ高田様は法務局の横にちょっとこだわりがあるということですか。どうしても法務局の横に造りたいと、ちょっとお聞かせください。

委員長 はい、高田様。

高田氏 果樹公園のことについてですね、今の松崎議員のついて、ありがとうございます。ただ、法務局の北ということは、かねがねそういうことも言っておりましてね。それから、渡辺副町長と志賀さん来たときも、わざわざうちの2階上がってね、あここのいいじゃないかとか、そういうこと言ってたのと、今回もねえ、知人の二人がですね、高田お前、果樹公園は駄目だというならね、次どこ行けちゅうの親切心がないじゃないか、そこまでまだよかったです。お前、卑怯じゃないかと、次のことも決めないでね、場所を決めないで、出て行けちゅうのはおかしいじゃないかと、そういう人も何人かおいでるなど、そういうことで急遽、この、果樹公園の反対の付け足しのようですね、書い

たわけでございます。それは、実は後から言いますと言ったんですが、それを町の方からありましてね、平成4年の何とか何とかの計画で決定しております。いわゆる広報には何でか全然ない。ね広報に出る1年前のなんか決めたいですよ。それは勝手に決められたんですね。我々町民としては、知るところじゃないです。どうもすみません。

根岸

今日はありがとうございます。いろいろおっしゃっているんですが、果樹公園、果樹公園に建てるのが、果樹公園に建てるのはやめて欲しいっておっしゃってるんですね。

高田氏

議長、いいですか。議長、いいですか。果樹公園をまず売り買いするものではないということ。ですからそこに建てるなんて持ってるほか。そうです。

委員長

高田様、まだ指名してない。ご発言控えてください。

根岸

それは、売り買いの物ではないからじゃなく、というのが理由じゃないと思うんですけど、どうして果樹公園への、新庁舎を取り止めて欲しいのかという理由を、陳情者の方が思われている一番大事な、理由を教えてください。

高田氏

先ほど言うておりますように、果樹公園は売買するものじゃない、買いに行くもんじゃない、県も売るものじゃないんです。そこから言うて、わかりやすく庁舎を造るだということから、でまた言いたいのはですね、

高田氏

庁舎をね、買いに行くな。また、県に売るな言ったんです。それが私は、町はもはや、諦めましてね、もう3年前から県にこれを何回か手紙書いてるし、いろいろな意見じゃこれではじめの間は、町のやることだからと言ってた。そのうち、議会の話が出ましてね。志賀部長が、県が、毎年ですよ毎年、取得してくれと言ってきて、それを買ってくれという解釈。皆さん、そしてそれが、しばしばですよ、しばしば言われております。実は、私は、それは前から知ってたけども、毎年とか、しばしばだから、一個人じゃないだろうと、私は一県職員として今ね、誰かにそれが言った誰かで懲罰、大変な面であるだろうから、言わなかったんです。それで、前の財産経営課の新井課長にもね、それを言わないっていう、噂だよって言って、という止めとって、ちゃんととうとうなんか言ったら、それを重ねてであり毎年だから、複数人間としていえるだろうかなと思って、いよいよそれを皆さんの議事録を送ってやった。それから、向こうとしては、まだ失敗というか向こうはそれを信じて、それでまた防災拠点いうことを信じてね、それなら売ろうとなった。ただ町はそういうことを知らずにね、買いに行ったって、そのために、議会でそういう答弁を引き出したか。ね。それを向こ

うも職員はその時言っていないと言いながらもね、やむを得ないと見たんじゃないでしょうか。それで、そこへ先ほど言うように防災拠点にしたいと言うから、これでは、県は黙っておれないだろうと、そういうことです。

根岸

はい。経緯がおかしいであるとか、あと、経緯、これまでの、何、土地の、うん。土地のやりとりの流れがおかしいだとか、あと、こういう陳情者の方がお調べになったことに対して、やっぱり疑問があるとか、疑いがあるとかっていう話を伺ったかと思います。で、先ほど原点というお話をされていらして、私も当時園芸試験場になったのは明治41年、その当時やっぱりその地主さんが20数名ぐらいおられたと。いうところの方がおられて、でも園芸試験場になったというところからすると、当時やっぱりその地主さんのままだったら、もっと土地が変わっちゃっていただろうしと思うと、やはりその時の地主さんにも感謝をしたいと思いますし、その原点と言われますと、どこがどこまでが原点として遡ればいいのかっていうふうに思いますが、おっしゃられてるのは多分この130、今年、今年までに数えると136年になるんですよ。そうすると、この136年で培われてきた歴史、これを大事にして欲しいというお話かと受けとめるんですけれども、とってももっとシンプルに簡単に短い言葉で、教えていただけますか。

高田氏

先ほど言いましたように、

高田氏

90年の迷惑をかけたと。ね、そういうことを言って、それで公園を造ったんです。そういうことが、承知していただきたいと。そこらが原点です。それで今、先ほども何か、おっしゃったけれどもですね、町長がね、知事がラディアン、何か来た用事の時これ取得としゃべりましたと、議会でそういうこと言ってるんですよ。それで、何かいかにも賛成を得たというところで、その次に今度は副町長が、武井副知事を果樹公園連れて行って、ここですと言ったら、いいとこですねって、これリップサービスですよ。それをね、盾にしてね、副知事にも言いました。現地で褒めていただいた。知事にはラディアンで話してあります。何ですか、それ、そういうことの論法でなぜ、そういう、果樹公園、触っちゃいけない果樹公園に行くんでしょうかね。むしろそちらを聞きたいですよ。

根岸

無償譲渡のことについて伺います。無償譲渡、とおっしゃってますね。で、このことは何を公園のままなる無償譲渡なんだから無駄なお金はかからないだろうということになるのか。無償譲渡で町がもらえるはずだったのにというようなお話とか、無償譲渡だったら庁舎がいい、庁舎がいいんじゃないのかなのか、ちょっと無償譲渡についてお聞かせください。

無償譲渡のことについてですね。私に署名運動のときとか、いろいろ応援していただいた人らもね、ここまで来てから負担があるのかという人が結構おられます。ということはね、それは条例ですから、言葉でただとかそういうことは書いてないです。ただ、78号にね、無償譲渡できる、そういうことを書いてあるんです。ある人はね無償譲渡及び優遇措置を言ってるんだからね。安くするとか、無償じゃないじゃないかとかいう人もいるし、それはね、事例的にですね。今、逗子でも問題起きたね、一緒にはげ山の問題が。これも、売りたいときはね、あれよあれよと条件つけてくれて、とうとう、逗子のはげ山はね、夜間照明つけるまでなっちゃったんです。野球場じゃあるまいし、それで、とうとうやめちゃった。ということは今度は二宮の場合は、買ってくれっていう、と町が取ったけれども、取得してくださいと言ってちょっとやっぱりついで、毎年か何年置きかの契約更新に、いちいち手続きやる、その面倒だけであってね、無償でくれて、向こうもそれだと無償。それから、もう将来無償であるものを買に行った町がいけないんですよ。それをね、なぜそんなに急いでなんて、あなたにも手紙書いたようにね、相手をだましたことみたいになるかしらんけども。公園のまま買いなさいって言って、そして10年、また適化法と言う8年、そういうものが援用してですね、やむを得なければそこで庁舎なり、他のものに駐車場にされたらいいじゃないですか。またそういう金があったら、今金があったら、用地をね、取得されるように努力された方がいいじゃないかと、そういう手紙あなた個人に出しました。この前の陳情陳述した翌日です。それであなただけじゃ足りないと思ってあと4、5名、ポストに入れましたですよ。ですから無償譲渡については議会が説明が私は不十分じゃなかった。ね、図書館にもあるし、役場にもあるし、そういうものをね、見てくださいというんで、これは一般には見えないですよ、なかなか。誰でも信じてもらって、それで私はその後、ブドウ、ナシの配布のときにですね、それに県はこういう法律があります。それから、それのもとになる国の理財局長、財務省理財局長通達がこういうのありますと、その2つを並べて、20枚ぐらい配りました。微々たるものでそれまた見てすぐポケット入れてしまう人とか、読んでくれたかどれぐらい読んでくれたかわかりませんが、町会議員の皆さん方それは十分承知の上だろうと、そう思っております。

はい。よろしいですか。はい。これにて質疑を終了いたします。

＜執行者側への参考質疑＞

はい2点です。第1駐車場が今回出てきました。第1駐車場は議会は否決をした。認めないよって言ってこっちに変わったかなと僕は認識してるんですが、執行者側の認識はどうですか。なぜ変えましたかということです。2つ目です。今無償譲渡のね、これ取得という言葉あと買うっていう言葉で非常に、難し

いところなんすけど、こんだけ面倒見てるんだから私は、タダでもらいなさいって言いました。交渉の末、それできないということになりました。ということで今きてるんですけど、それ事実ですか、今のお話ですと、無償譲渡が実はあった。なのに私たちには逆のことを言って嘘ついたと。という質問です。事実はどこにありますか。

施設再編課長

はい1点目でございます。はい。野地議員のおっしゃる通りなんですけれども、第1駐車場、先ほど来ありますけれども、浸水、当時は、当時から浸水する可能性、リスクがあるということですね、議論になっておりまして、第1駐車場では、駄目だという、明確なご意見というかですね、議会からいただいた結果ですね、場所の選定を改めてするということで町民を巻き込んで議論、先ほどもワークショップ、シンポジウムのお話させていただきましたけれども、その結果、果樹公園であればですね、いいよという表現がちょっと適切かどうか、わかりませんけれども、果樹公園であれば、そのあとの予算をお認めいただいているということで、認識しております。以上です。

政策部長

はい。無償の件ですね。私も町民の方から、明治の時代ですか町民がもともと町民の土地を、県のために拠出したんだから、買うことなんかないというようなご意見をいただいたこともあります。そうこうなんです、陳情者の方がおっしゃってるその県との当時のやりとりの資料というのは、町も県も確認したところ、そういうのは確認されていないというのが現実です。無償にしてくれませんかって、ここまで果樹公園として、当然、園師で働いてた方々も引き続き働いていただきながら、果樹公園として管理してきた歴史があるから、無償にしてください、くださいませんかという交渉は、担当もしておりますし、副町長と副知事もしておりますし、知事と町長もしている。そういった中で、やはり無償はないよねと。いうようなところで結論が今回お示ししようとしている金額になっているということでございます。以上です。

委員長

はい。他に質疑はございませんか。今、はい。発言申し訳ございません、承れません。質疑がなければこの後、傍聴議員申し訳ないんですけども、お時間の関係でございます。省略させていただきますのでご了承願います。

<意見交換>

委員長

これより委員による意見交換を行います。ないようですので、意見交換を省略いたします。

<討論>

委員長

これより討論に入ります。2名。3名。松崎委員。

松崎

はい。私は反対の立場で討論いたしますが、討論いたしますが、このですね果樹公園に造ることは反対という立場は全く同じなので、これからも一緒に頑張っていきましょう。ただ私の立場としては、法務局の横に、造ることにしましてはちょっと私はね、前向きになれないんで、それはご理解ください。以上です。

渡辺

はい、私も反対の立場で討論します。やはり法務局北側については、これが浸水の可能性が、ハザードマップでも示されているということで、意見は割れたと思うんですが、やはりそういうところから、より安全な場所を選んだという認識をしておりますので、北側に造れというのはちょっと、賛成が難しいです。以上。

副委員長

はい。私は陳情第 14 号に賛成の立場で討論いたします。本陳情は、従前計画地の第 1 駐車場に変更を求める陳情ですが、私としては、第 1 駐車場となったとしても、その前に十分な治水対策が必要だと考えております。もしもということですが例えば、現計画が進んだ場合として言えば、補足資料にあります飲食スペースをラディアンにした方が良いというところには賛同をいたします。なぜなら 2 棟建設とした現計画の内容は、複合化がされているのではなく、飲食スペースが入ることで、他用途になる程度のものだからです。せっかく人が集まるラディアンという施設があるのに選択されないのが不思議です。陳情趣旨全般には、同意とは言えませんが、町民の不安や意見を尊重し、町へつなぐことで、よりよい庁舎、よりよい町運営に繋がると信じて、陳情を採択いたします。賛成をいたします。

委員長

これをもって討論を終結いたします。それでは、すみません発言は今認められませんので、申し訳ございません。

＜採決＞

委員長

それでは、陳情第 14 号を採決いたします。陳情第 14 号を採決すべきものとするに賛成の委員の挙手を求めます。失礼いたしました。採決すべきものとするに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手少数)

はい。挙手少数であります。よって陳情第 14 号は不採択すべきものと決しました。次にこの陳情の不採択に対する審査委員の作成についてはいかがいたしましょうか。

(「正副一任でお願いする」との声あり)

はい。正副委員長に一任の声がありましたので、審査意見の作成については、正副委員長に一任願いたいと思いますが、ご異

議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

ご異議なしと認めます。よってそのように決しました。以上で陳情第14号の審査を終了いたします。お疲れ様でした。暫時休憩いたします。

暫時休憩 16 時 22 分

再開 16 時 35 分

④二宮町税条例の一部を改正する条例（町長提出議案第64号）

委員長

それでは休憩前に引き続き会議を開きます。5 時以降もこのまま会議を続けますので、ご了承ください。次に、二宮町税条例の一部を改正する条例、町長提出議案第64号を議題といたします。執行者側から補足説明がありましたらどうぞ。

戸籍税務課長

補足説明資料「二宮町税条例の一部を改正する条例の概要」をご覧ください。趣旨は、地方税法等の改正に伴い、所要の改正を行うものです。内容です。大きく3つございます。1つ目は、「個人町民税の寄附金控除に関する規定の改正」です。公益信託制度改革に伴う所得税法の改正により、地方税法が改正されたため、町条例において引用条項を整理するものです。所得税法の改正の概要は、特定公益信託に係る寄附金控除の対象は「金銭」に限定されていましたが、今回の改正により金銭に限定されないこととされたものです。続きまして、内容の2つ目は、「固定資産税のわがまち特例に係る改正」です。まず、特定バイオマス発電設備に係る規定についてですが、出力が10,000 kW以上 20,000 kW未満の発電設備のうち、一般木質・農産物残さ区分に該当する設備に係る特例割合が縮減される規定が新たに追加されたため、町条例においても改正するものです。文章ではイメージがつきにくいので、恐れ入りますが3ページをご覧ください。ページ下の「二宮町税条例の現行と改正後の比較表」をご覧ください。バイオマス発電設備の規模が、現行では1,000 kW以上 20,000 kW未満の設備の特例割合が3分の2となっておりますが、改正後では、その設備のうち、10,000 kW以上 20,000 kW未満の一般木質・農産物残さ区分に該当する設備についてのみ、通常 3 分の 2 の特例割合が適用されるところを新たに条例で定める特例割合とするものです。恐れ入りますが1ページへお戻りください。なお、新たに条例で定める特例割合については、7 分の 6 を参酌して 14 分の 11 以上 14 分の 13 以下の範囲内において市町村の条例で定めることとされているため、この範囲内で一番優遇される 14 分の 11 を採用しております。なお、令和5年度までの固定資産税に係る当該特例措置については、従前の例によるものとなります。次に、特定事業所内保育施設に係る規定ですが、令和6年 3 月 31 日をもって特例対象期間が経過したことに伴い法の規定が削除されたため、町条例においても削るものです。最後

に内容の 3 つ目は、「引用条項の整理」となりますが、地方税法等の改正に伴い附則に項ずれが生じたため、町条例附則の引用条項の整理を行います。説明は以上です。

<質疑>

渡辺

2 つ教えてください。1 つは、今回の変更で実質的に町に係わってくる部分というのは、あるのでしょうか。もう 1 つは、先ほど、金銭に限定されないものとして美術品、金塊などという説明がありましたけども、これって何か価値が変わるのではないかと思うんですが、実務上はどういうふうな扱いをされるのか、その 2 点を教えてください。

町民税班長

まず 1 つ目、実質的に町に影響があるかどうかというようなご質問なんですけれども、普段、確定申告書の内容のチェックとか、申告会場での相談受け付け内容からすると、この公益信託に係る寄付金控除というものの自体が見たことがないといいますか、実質的に二宮町直接に影響するようなものとは、我々としては捉えておりません。2 点目、公益信託の部分についてですが、美術品であったり、金塊等価値が変動するものというような趣旨のご質問かと思いますが、個人の方が、例えば美術館を運営する公益法人に美術品を展示してもらうように委託したりとかという時に掛かるような経費というんですかね。今まで金銭だけに限定されていたものが、それにかかる費用自体も寄付金として枠が広がった、対象が広がったことによって、寄付金控除の対象となるというような改正になりますので、そういった回答になります。

渡辺

それともう 1 つ、バイオマス発電設備の方なんですけれども、これも町内には今のところないということでしょうか。

資産税班長

おっしゃるとおりです。現在バイオマス施設は町内にはございません。

副委員長

先ほどの美術品とか金塊とかの評価方法は聞きましたか。それと、このバイオマス発電の条例で定める割合が 14 分の 11、次のページでいくと、3 分の 2 と書いてあるんですけど。基本と、その特例ということで出されているのかどうか確認をさせてください。

町民税班長

まず、公益信託に係る部分についてですが、評価をするというものではなく、それにかかった経費の部分が寄付金控除として公益信託制度として、当然認定だったり、そういったものが必要になるんですけれども、かかった部分が認められたものについて、寄付金控除の対象になるというものですので、特に、どこかで評価をするとかそういう趣旨のものではないと捉えています。

資産税班長

バイオマスの施設の関係で、こちらは 3 分の 2 とあるのは、基本というところで特例割合として 14 分の 11 が最大値であるということですので、二宮町としては、14 分の 11 の特例、軽減のより大きい方を選んだということで、14 分の 11 にさせていただいています。

副委員長

特例で定められる最大値ということになってくるのはわかるんですけど、この発電規模からいって、その施設というものが町内に設立というか、建設可能な範囲なのかどうか実態的なところの部分をどのように見込んでいるのか教えてください。

資産税班長

今のご質問ですが、例えば、隣の秦野市にあるクリーンセンターがあり、バイオマス発電を行っており、この施設の面積が大体4,500平米で、5,000世帯分のごみを焼却する際に発生する電力量が3,820kWというふうになっておりまして、単純に1万と言いますと、これは2つ分ということで、非常に大きな施設になりますので、非常に二宮町では設立は難しいのかというところで認識している。

松崎

寄付金控除のことなんですけれども、これ本来現金を寄付する場合、その見返りといったらなんですけれども、寄付金控除を得られるから、寄付をするという人が多いと思うんですよ。それが今回、さらに現金以外すなわち今、おっしゃっていた金塊とか美術品という話なんですけれども、それを寄付する場合も、その際のその手数料だけというのがよくわからないんです。換金性のあるものだったら、例えば有価証券にしても、金塊にしても、直前に換金してしまえばいいわけなんですけれども、それでもやはり控除されるのは手数料だけということですか。美術品なんかだったら、例えば100億のピカソを町に寄付しましたといっても、すぐには換金性がないんで、それはもう100億にしようが、200億にしようが、あくまでも手数料だけということですか。そうすると、有価証券とか金塊の寄付というのはすごく不思議な気がするんですけど。

町民税班長

そもそも公益信託に係る部分になりますので、例えば個人の方が金銭等、あえて等って言いますけど、金銭等を学術・芸術、慈善と祭祀等の公益目的のために信託銀行や公益法人に預ける。それで、その信託銀行が定められた目的に従って、その財産を管理運用することに対する公的、公益的な活動を行う制度になります。それに対する寄付というんですかね。さっき例示させていただいた美術館に美術品を預けるとか、他にも空き家となっている不動産を公益法人に託して、経済的困窮者の方への支援施設として利用してもらうとか、そういう部分についても、今回の新しい公益信託制度の信託財産とすることができるといふような改正になりますので、有価証券の換金性というんですかね。そういったものと直結するものではないと考えています。

委員長

他にございませんか。

(「なし」との声あり)

ないようなので質疑を終了いたします。傍聴議員の発言なのですが、お時間の関係があり、省略させていただきます。ご了承ください。

(傍聴の議員の質疑:なし)

＜討論＞

なし

＜採決＞

委員長

それでは、議案第 64 号を採決をいたします。議案第 64 号を原案の通り可決すべきものとするに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手全員)

挙手全員であります。よって、議案第 64 号は可決すべきものと決しました。暫時休憩いたします。

暫時休憩 16 時 49 分

再開 16 時 52 分

⑤二宮町道路構造等の基準を定める条例の一部を改正する条例(町長提出議案第 65 号)

委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。次に、二宮町道路構造等の基準を定める条例の一部を改正する条例、町長提出議案第 65 号を議題といたします。執行者側から補足説明がありましたらどうぞ。特になし。はい。ありがとうございます。これより質疑を行います。野地委員。

＜質疑＞

野地

自転車道の設置ということで、例えばこれ、もちろん町道にしか我々関係ないんですが、時速 60 キロ以上の道って書いてあって、そんな町道ないだろうと思うんですが、今現在設置する場所ないですよ、今後も設置する予定は今のところないですよ。その質問です。

道路班長

はい、今回改正されるのが、自転車道というのは元からあった、制度上あったものになりまして、今回というのが道路構造令の流れとしてまず今まで歩道と自転車道あと自動車道ですね、その 3 種類という形であったんですけども、この自転車道というのが、幅員が 2 メーター以上取らなくちゃいけないよとか、そういったものがございまして、なかなか進まないっていう経緯がございました。で、そこでですね今回自転車通行帯、というものを新設をいたしまして、車道の左側に自転車通行帯で帯状のブルーのラインを引くような形で、新設をしたというのが経緯でございまして、そうするとこの自転車通行帯と自転車道というのが、その区別をしなくちゃいけないというところで、自転車道に関しては時速 60 キロ以上の道路を対象するという規定を追加したというところになりますので、委員のおっしゃる通り二宮町の中には、時速 60 キロを超えるような道路ございませんので、自転車道に関しては新たに設けるっていうところはございません。また今既存の町道に対して新たに自転車通行帯を設置を義務化するものではございませんので、今後新設とか改良する場合に、設置を行う際にはまた本基準を適用するという形になります。以上になります。

渡辺 二宮の町道は、種別でいうと、第4種第4級になるんですか。都市部になるのそれとも地方で、第3種第5級どっちの区分になるのかなっていう。

都市整備課長 はい。二宮町、町道になりますので、区分から言いますと、第3種であろうと。ただ条例上ですね、地方部と都市部というところございますので、これは両方とも、時代の流れっていうんですかね、町の作りとか、交通量とかにもよって変わってくると思いますので、こういう条例の規定にさせていただいてるところでございます。以上です。

渡辺 はい。それであと、この通行帯ですけども、通行帯については、必ず、必ずこれを設けろという規定には、なくて、通行帯を作るのであればこういう、基準にしないと、そういう理解でよろしいですか。

道路班長 委員のおっしゃる通りそういう意味合いになります。以上です。

渡辺 これは条例ですけども、今後、この条例に従って、通行帯を整備しようとか、そういうふうな計画は、今現在あるものでしょうか。お考えとして。

委員長 道路班長。

道路班長 先ほどご説明したように今回の条例改正に関して、既存の町道に対して、新たに通行帯を設けるものではないというところになりますので、今のところですね、整備予定というのはございません。以上になります。

松崎 二宮の場合、あるとしたら自転車通行帯だけになると思うんですよね。これ先ほどからのお話だとこれ、別に義務化してるわけでもないし、やりたきゃやりなって何か、何ていうかな。だから、その割にはね、幅の、何かルールとかあるじゃないですか。それがすごく、何か腑に落ちなくて、だからこの1.5メートル以上にこだわらない、例えば1メートルで作りました。そしたらもうそれは自転車通行帯とは呼べないわけですよね。そういう勝手にね。あ、1メートル、90センチでいいや、90センチのものを作って、それはもう自転車通行帯とは呼べないけど、自転車通行帯のようなものっていう呼び方をして、作るのは勝手になっちゃいますよね。だからなんか何というか緩すぎると、何かあまり意味がなくなっちゃうのかなっていう。しかもね、もう一つこの自転車通行帯っていうのはおそらく自転車通行するものだと思うんですけども、他のものは走っちゃいけないのとかそういうね、こともね、あんまり緩すぎると、例えば、電動キックボードはいいんですか、セニアカーはいいんですかと

か、だから余りにも緩すぎると、なんかつかみどころのないような気がしちゃうんですけど。はい。

都市部長

はい。そうですね、おっしゃる通りなんですけど、どうしても法律って、先ほど渡辺委員も言ってましたけど、地方部であつたり都市部、地方部とか都市部で、通行量は全然違うところで、一つの法律ですべてを賄わなきゃいけないのである程度緩くなるのは仕方ないところだと思うんです。で、今言ってる、自転車通行帯っていうのは、追加資料で、白い紙で、写真が入ってますけど、左側の、自転車がちょうどのつかつてる青いライン、ずっとありますね。こういったものを言うんですけど、あとはこれをこれよりももっと軽いものでいくと、国道1号線によくあるんですけど、矢羽根といって三角の、矢印みたいなのをずっと、つけてですね、自転車はそこを通ってくださいっていうのを誘導するだけの、そこを通らなくても捕まるわけでもないですし、歩道が太ければ、歩道が3.5メートル以上あれば歩道通っても自転車大丈夫なんですけど、そういうものもあります。かなりちょっと曖昧でわかりづらいかと思うんですけど一応最低限の基準を法律で定めたので、それに基づいて条例を定めなければならないというところでご理解いただければと思います。

松崎

ちょっとプラスアルファなんで先ほどもちょっと聞きましたけども、この自転車通行帯に電動キックボードとか、セニアカーとかでいいんですかね。駄目か、あれ。

都市部長

はい。電動キックボードの場合はナンバー取って、ヘルメットかぶってれば当然この自転車通行帯通っても大丈夫です。セニアカーはあくまでは歩行者と同じと扱うので、やはり歩道を通ってもらうような形になるかと思います。はい。

根岸

自転車通行帯を、いやああの道路に必要じゃないかって、言ってくる団体さんなり町民なりとかっていうことがあったりしたら、何かこう、それなりの手続きを経て通行帯が付けられるという可能性はあるんでしょうか。

都市整備課長

はい。そういったご意見等あればですね、我々道路管理者ですので、その他に交通管理者、警察ですね。こういったところもご相談をさせていただく必要性がございます。ただこれ、条例その上の法律もそうですが、定め基準ですので、それを、先ほども申しましたように町内でやれるところがございませんというお話をさせていただいた上で考えますと、幅を広げる必要性が出てくるかと思いますので、現行のそういった法律によって対応していくということは、形になろうかと思います。以上です。

委員長

はい。よろしいですか。他にございませんか。はい。これで質疑を終了といたします。傍聴議員の発言はすいません先ほど来、

時間の関係で省略させていただきます。

(傍聴の議員の質疑:なし)

<討論>

なし

<採決>

委員長

それでは、議案第 65 号を採決いたします。議案第 65 号を原案の通り可決すべきものとするに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手全員)

挙手全員であります。よって、議案第 65 号は可決すべきものと決しました。暫時休憩いたします。

暫時休憩 17 時 03 分

再開 17 時 04 分

⑥二宮町下水道条例の一部を改正する条例（町長提出議案第 66 号）

委員長

はい。それでは休憩前に引き続き会議を開きます。次に、二宮町下水道条例の一部を改正する条例、町長提出議案第 66 号を議題といたします。執行者側から補足説明がありましたらどうぞ。はい。補足なし。これより質疑を行います。はい。野地委員。

<質疑>

野地

はい、お願いします。酒匂川流域下水道からの放流水って書いてあるんですけど。全部調べなきゃいけないのかな。二宮町は、これに関わるどころ、もしくは、あるか、今は全部その箇所を測っているのか。群数と菌数って何が違うの。以上です。

業務班長

はい、今の野地委員のご質問にお答えをさせていただきます。まず大腸菌群数、大腸菌数の違いなんですけれども、大腸菌というのが、人及び動物の腸管内に存在する細菌の一種となっております。大腸菌群というのが、衛生管理上の汚染指標となっております。大腸菌の他に、糞便汚染のない水や土壌等に生息する自然由来の細菌も含まれた概念となっております。

下水道課長

はい、ちょっと補足させていただきますと、酒匂川流域下水道にですね放流する基準っていうのがありまして、例えばですね工場とか、排出されるものっていうのは、大体何が出るかっていうのはもう決まっていますので、そのオーバーしそうなものを、水質検査してさせていただいて、実際、基準値に満たしているかどうかっていうのを確認させていただきます。あと、先ほどちょっと班長から説明あったんですけども、大腸菌群数と大腸菌

の違いなんですけども、この大腸菌プラス、先ほど土壤等に分布する自然由来の細菌プラス、大腸菌が死んでいる菌も含んだものっていうのが大腸菌群数、言ってみれば集合体ですね、集合体が大腸菌群数になってます。最近ではですね、検査の技術が向上いたしまして、大腸菌の生きている菌、菌の数のみを測定することが可能になったということで法改正が行われております。以上です。

松崎

要するに今まではね、大腸菌数だけ調べることはできなかったけどそれができるようになりましたと。ですから、言ってみれば今までは大腸菌群、この例えばある水があって、それがすごく大腸菌群が多かったと。よくよく調べたらその中に大腸菌は含まれてなかったってなったら、今までは非常に問題のある水だけれども、これから問題がなくなるわけですよね。これを機に、実際そういう例ってのはあるんですか。

下水道課長

今までにですね、そういった例というかですね大腸菌を数えるものっていうのは今までも群数ではあるんですけども、数えられていましたので、でもその群数の中に死んでる菌も含んだ形でしか数えることができなかったのも、それが今回、技術が発達したことによって、生きている菌のみ、数えられることになったってことになってます。以上です。

都市部長

はい。その大腸菌が測れるようになってからまだ日が浅いので、ちょっと実績としては、まだ出てないのが正直なところなんですけどおっしゃる通り、すべてが群数の中のすべてが死んでる菌で生きてる菌はなかったっていう可能性は、全くゼロではないと思います。もちろん、ただうちの下水、二宮町の下水はすべて酒匂川へ行って、酒匂川の縁にある浄化槽で浄化をした後に測りますから、当然浄化が完璧であれば、そうですね。なんで、群数じゃなくて、ただの大腸菌数だったらゼロになっている可能性もなくはないと思います。はい。

委員長

はい。ございませんか。はい。これにて質疑を終了いたします。傍聴議員。すいません。省略させていただきます。

(傍聴の議員の質疑:なし)

<討論>

なし

<採決>

委員長

それでは、議案第 66 号を採決いたします。議案第 66 号を原案の通り可決すべきものとするに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手全員)

挙手全員であります。よって、議案第 66 号は可決すべきものと決しました。これをもちまして、本委員会に付託されました案件の審査を終了いたします。長時間にわたりご苦勞さまでございました。ありがとうございます。

閉会 17 時 11 分